取扱ガイド

各部の名称／取り扱い／仕様

FUJITSU

『画面で見るマニュアル』のご案内

説明している主な内容

- パソコンの基本
- セキュリティ対策
- インターネット／Eメール
- 使いこなし事例集
- パソコン本体の取り扱い
- 周辺機器の接続
- 添付ソフトウェア一覧
- 困ったときのQ&A

この他にも役立つ情報が盛りだくさんです。

画面で見るマニュアルを起動するには

(スタート) →「すべてのプログラム」→「画面で見るマニュアル」の順にクリックしてください。

参照先の探し方

冊子のマニュアルの本文内に、≫「******(6桁の数字)」とある場合は『画面で見るマニュアル』で検索してご覧ください。

『画面で見るマニュアル』について詳しくは、画面右上の を クリックしてください。

テクニカルコミュニケーター協会が定める「画面で見るマニュアル標準マーク」です。

目次

安全にお使いいただくために 4
このマニュアルの表記について 4

第 1 章　各部の名称と働き

1　パソコン本体前面 8
2　パソコン本体上面 10
3　パソコン本体側面 11
　パソコン本体左側面 11
　パソコン本体右側面 12
4　パソコン本体背面 13
5　パソコン本体下面 14
6　キーボード 15
7　状態表示 LED 16

第 2 章　パソコンの取り扱い

1　電源を入れる／切る 18
　電源を入れる 18
　電源を切る 22
2　バッテリで使う 25
　バッテリを充電する 25
　バッテリの充電状態や残量を確認する 25
　内蔵バッテリパックを交換する 27
3　マウスを使う 29
　マウスについて 29
　マウスの使い方 31
4　フラットポイントを使う 33
　フラットポイントについて 33
　フラットポイントの使い方 34
5　タッチ機能を使う 36
　タッチ機能とは 36
　タッチ機能を使ってできること 36
　タッチ機能についての注意 37
　タッチ機能を使う 38
6　音量を調節する 42
7　液晶ディスプレイの明るさを調節する 43
8　CD/DVD を使う 44
　使えるディスク／使えないディスク 45
　ディスクをパソコンにセットする／取り出す 48
9　メモリーカードを使う 53
　メモリーカードを使ってできること 53
　メモリーカードをお使いになるうえでのご注意 54
　使えるメモリーカード 55
　メモリーカードを差し込む／取り出す 56
10　LAN 機能を使う 59
　LAN（有線 LAN）をお使いになる場合 59
　無線 LAN をお使いになる場合 60

第３章　周辺機器の設置／設定／増設

1　周辺機器をお使いになる場合 64
周辺機器とは？ 64
周辺機器を取り付けると 64
周辺機器の取り扱い上の注意 65
周辺機器の取り付け方を調べる 67
2　メモリを増やす 68
メモリの組み合わせを確認する 68
メモリを取り付けるときの注意 69
必要なものを用意する 70
メモリを取り付ける 70
メモリ容量を確認する 72

第４章　お手入れ

1　お手入れ 76
パソコン本体および添付品のお手入れ 76
液晶ディスプレイのお手入れ 77
CD/DVD ドライブのお手入れ 77
空冷用通風路のお手入れ 78

第５章　仕様一覧

1　パソコン本体の仕様 82
仕様一覧の注記について 84
2　その他の仕様 86
CD/DVD ドライブ 86

索引 87

安全にお使いいただくために

本製品には『安心してお使いいただくために』というマニュアルが添付されています。本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
お使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

このマニュアルの表記について

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、画面およびイラストが若干異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⃠	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
Point	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
●●▶	参照先を記述しています。
	冊子のマニュアルを表しています。
	画面で見るマニュアルを表しています。 （起動方法について、このマニュアルの巻頭でご案内しています。）
	CD-ROM/DVD-ROM を表しています。

製品などの呼び方について

このマニュアルでは製品名称などを、次のように略して表記しています。

製品名称	このマニュアルでの表記
Windows® 7 Home Premium	Windows または Windows 7 または Windows 7 Home Premium
Windows® 7 Professional	Windows または Windows 7 または Windows 7 Professional
Windows® 7 Ultimate	Windows または Windows 7 または Windows 7 Ultimate
Windows® Internet Explorer® 8	Internet Explorer 8 または Internet Explorer
InterVideo WinDVD® for FUJITSU	WinDVD
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法
スーパーマルチドライブ	CD/DVD ドライブ
画面で見るマニュアル V2.1	画面で見るマニュアル
ExpressCard™/34 モジュール ExpressCard™/54 モジュール	ExpressCard

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Aero、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、インテル Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
Corel、Corel のロゴ、InterVideo、InterVideo ロゴ、InterVideo WinDVD は、Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。
HDMI、HDMI ロゴ、および High-De.nition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
SD ロゴおよび SDHC ロゴは商標です。
「メモリースティック」、「メモリースティック PRO」、「メモリースティック Duo」、「メモリースティック PRO Duo」、「メモリースティック PRO-HG Duo」、「メモリースティックマイクロ」、「マジックゲート」 および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。
ExpressCard™、ExpressCard™ ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association（PCMCIA）の商標で、富士通へライセンスされています。
その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

ドルビー、DOLBY、ダブル D 記号、AC-3 およびプロロジックはドルビーラボラトリーズの商標です。

第**1**章

各部の名称と働き

パソコンの各部の名称と働きについて説明しています。
ここでは、代表的な機能を説明しています。

1　パソコン本体前面 8
2　パソコン本体上面 10
3　パソコン本体側面 11
4　パソコン本体背面 13
5　パソコン本体下面 14
6　キーボード 15
7　状態表示 LED 16

1

各部の名称と働き

1 パソコン本体前面

メニュー　50音入力　A⇔あ　小 音量 大　大文字 Caps Lock　サポート

ワンタッチボタン
決められたソフトウェアをワンタッチで起動したり、
設定をワンタッチで変更したりします。

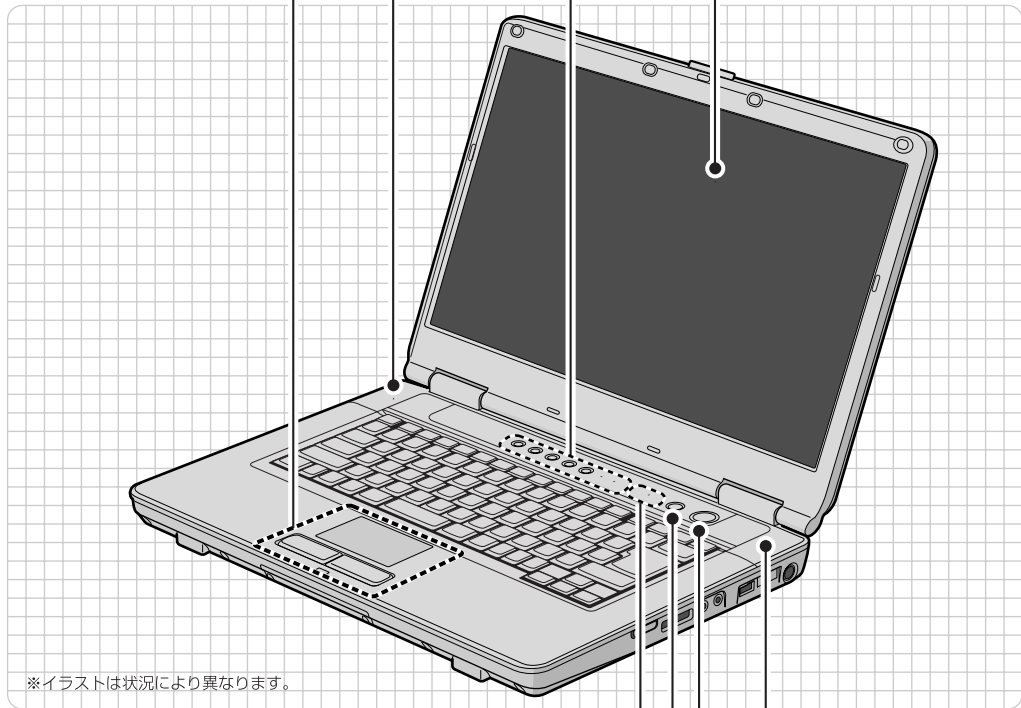
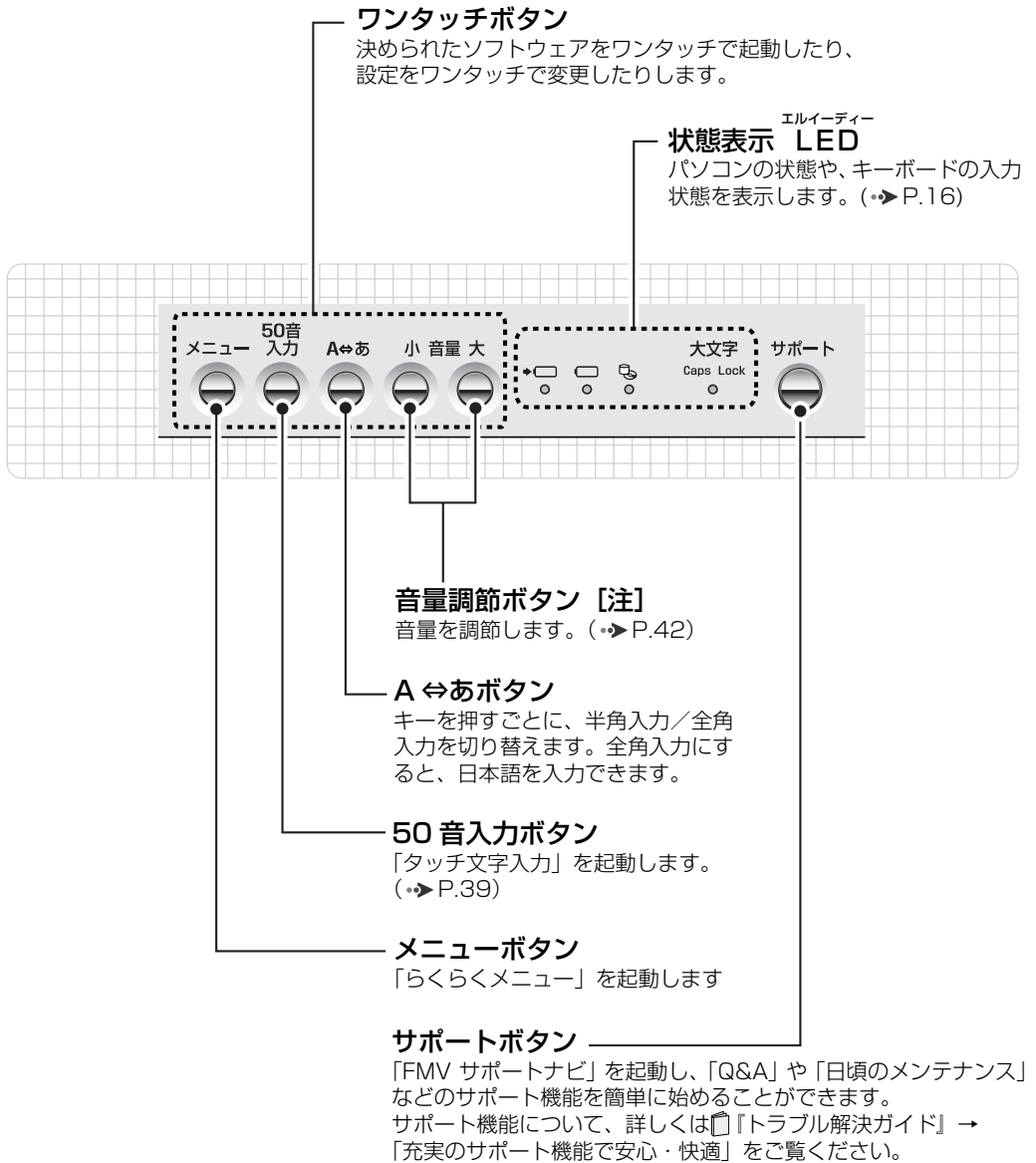
状態表示LED（エルイーディー）
パソコンの状態や、キーボードの入力状態を表示します。（P.16）

音量調節ボタン［注］
音量を調節します。（P.42）

A ⇔あボタン
キーを押すごとに、半角入力／全角入力を切り替えます。全角入力にすると、日本語を入力できます。

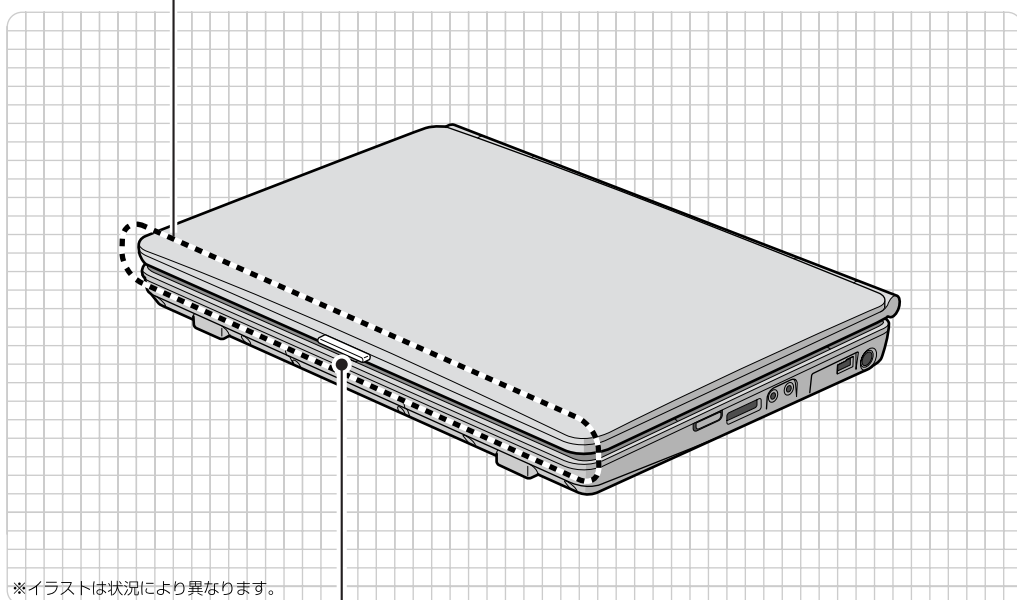
50 音入力ボタン
「タッチ文字入力」を起動します。
（P.39）

メニューボタン
「らくらくメニュー」を起動します

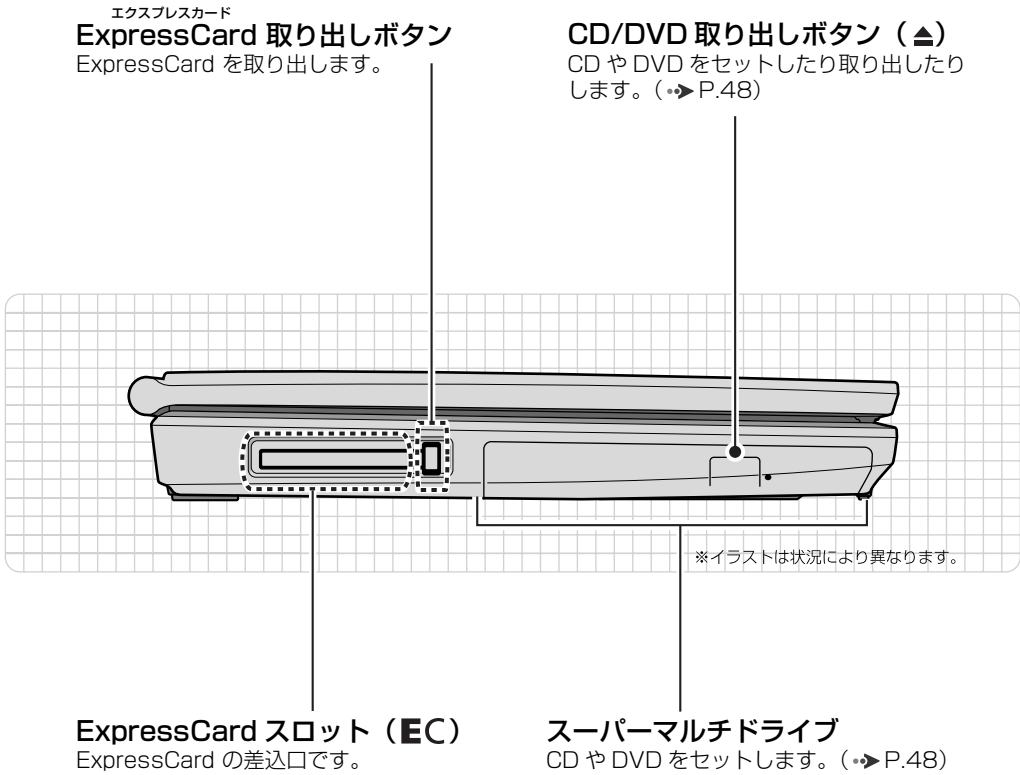
サポートボタン
「FMV サポートナビ」を起動し、「Q&A」や「日頃のメンテナンス」などのサポート機能を簡単に始めることができます。
サポート機能について、詳しくは『トラブル解決ガイド』→「充実のサポート機能で安心・快適」をご覧ください。

パソコン本体前面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照
『画面で見るマニュアル』»「000210」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体」→「パソコン本体前面」

パソコン本体上面

内蔵無線 LAN（ラン）アンテナ
無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。
無線 LAN での通信中は、アンテナ部分に極力触れないでください。
（→P.60）

ラッチ
この部分を押しながら液晶ディスプレイを開きます。

パソコン本体上面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照
『画面で見るマニュアル』»「000210」で検索→「各部の名称と働き：パソコン本体」→「パソコン本体上面」

パソコン本体側面

パソコン本体左側面

ExpressCard 取り出しボタン（エクスプレスカード）
ExpressCard を取り出します。

CD/DVD 取り出しボタン（⏏）
CD や DVD をセットしたり取り出したりします。（→P.48）

※イラストは状況により異なります。

ExpressCard スロット（EC）
ExpressCard の差込口です。

スーパーマルチドライブ
CD や DVD をセットします。（→P.48）

パソコン本体側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照
『画面で見るマニュアル』»「000210」で検索→「各部の名称と働き：パソコン本体」→「パソコン本体左側面」

パソコン本体右側面

ヘッドホン・ラインアウト兼用端子（ ）

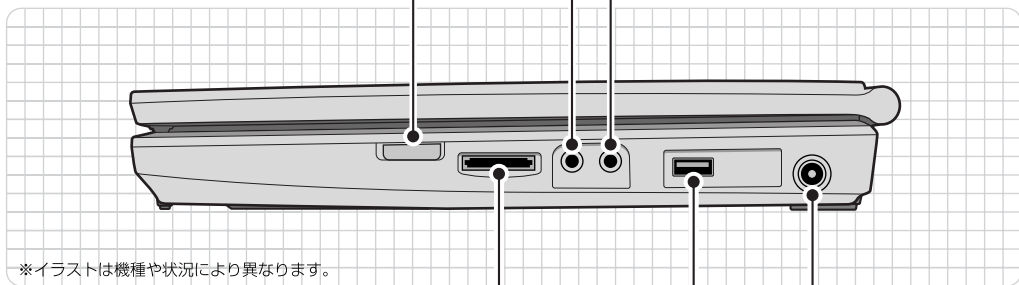
市販のヘッドホンを接続します。ヘッドホンは、外径3.5mmのミニプラグに対応したものをご用意ください。また、設定を変更することで、ライン出力端子としても使用できます。

マイク・ラインイン兼用端子（ ）

市販のパソコン用マイクを接続します。マイクは、外径3.5mmのミニプラグに対応したものをご用意ください。また、設定を変更することで、ライン入力端子としても使用できます。

ワイヤレススイッチ

無線LANの電波の発信／停止を切り替えます。無線LANをお使いになるときは、スイッチをONにしてください。
（ P.60）

※イラストは機種や状況により異なります。

ダイレクト・メモリースロット

SDメモリーカード、メモリースティックの差込口です。
miniSD[ミニエスディー]カードやメモリースティックDuoなどは、アダプターを使用してください。（ P.53）

USB（ユーエスビー）コネクタ（ ）

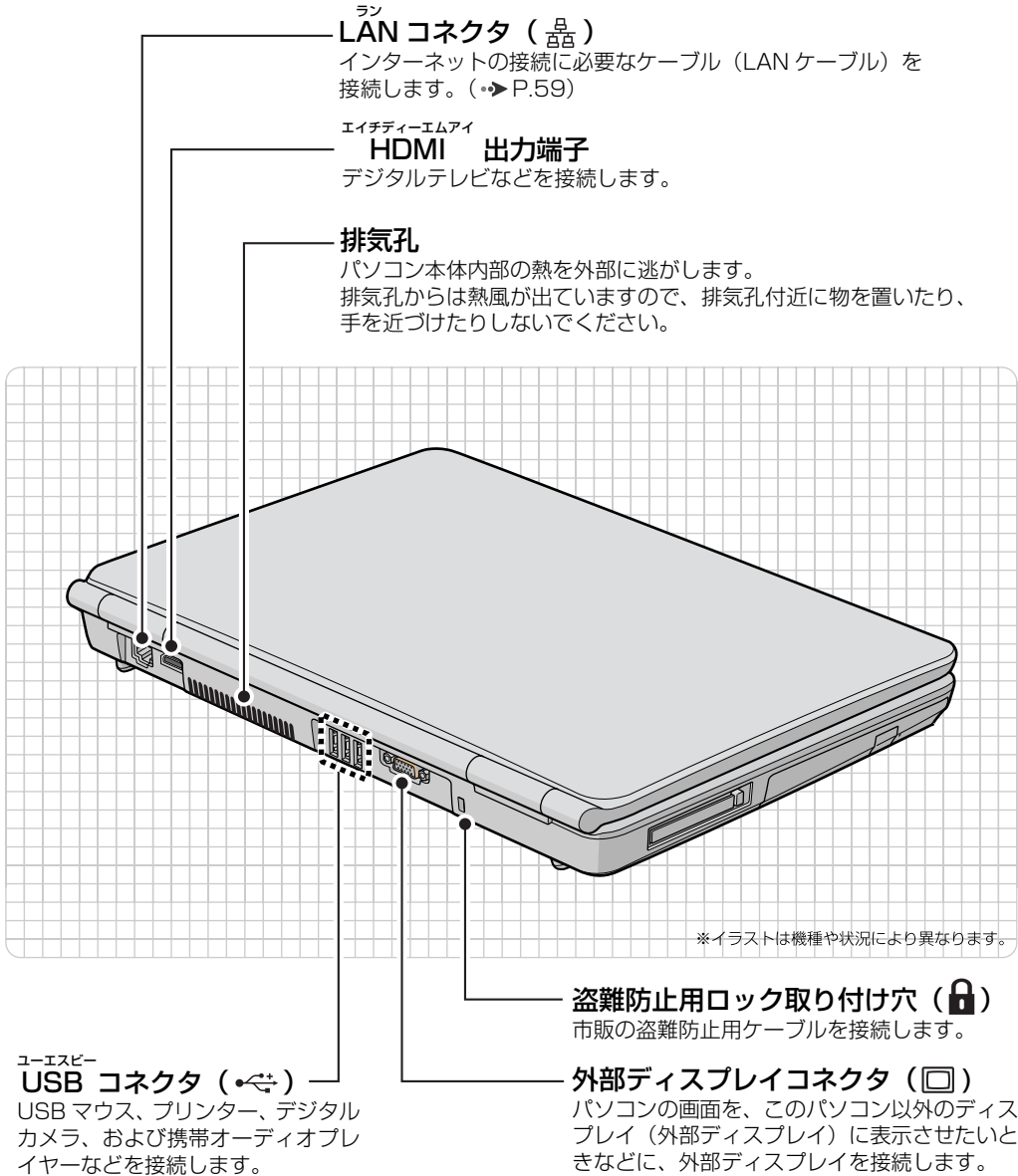
USBマウス、プリンター、デジタルカメラ、および携帯オーディオプレイヤーなどを接続します。

DC-IN（ディーシーイン）コネクタ（ ）

添付のACアダプタを接続します。（ P.19）

パソコン本体側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000210」で検索→「各部の名称と働き：パソコン本体」→「パソコン本体右側面」

パソコン本体背面

パソコン本体背面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000210」で検索→「各部の名称と働き：パソコン本体」→「パソコン本体背面」

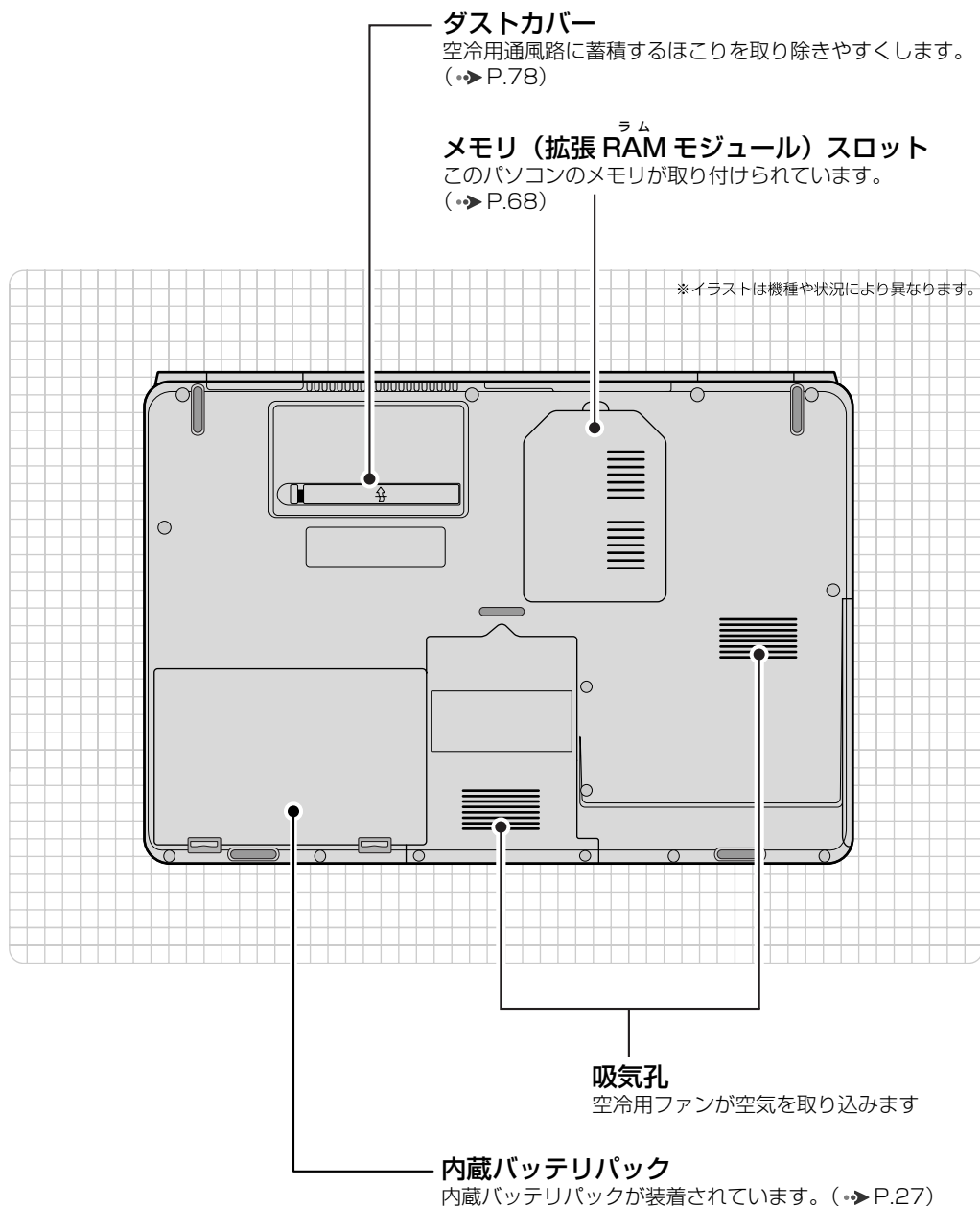
パソコン本体下面

ダストカバー
空冷用通風路に蓄積するほこりを取り除きやすくします。
（P.78）

メモリ（拡張 RAM モジュール）スロット
このパソコンのメモリが取り付けられています。
（P.68）

※イラストは機種や状況により異なります。

吸気孔
空冷用ファンが空気を取り込みます

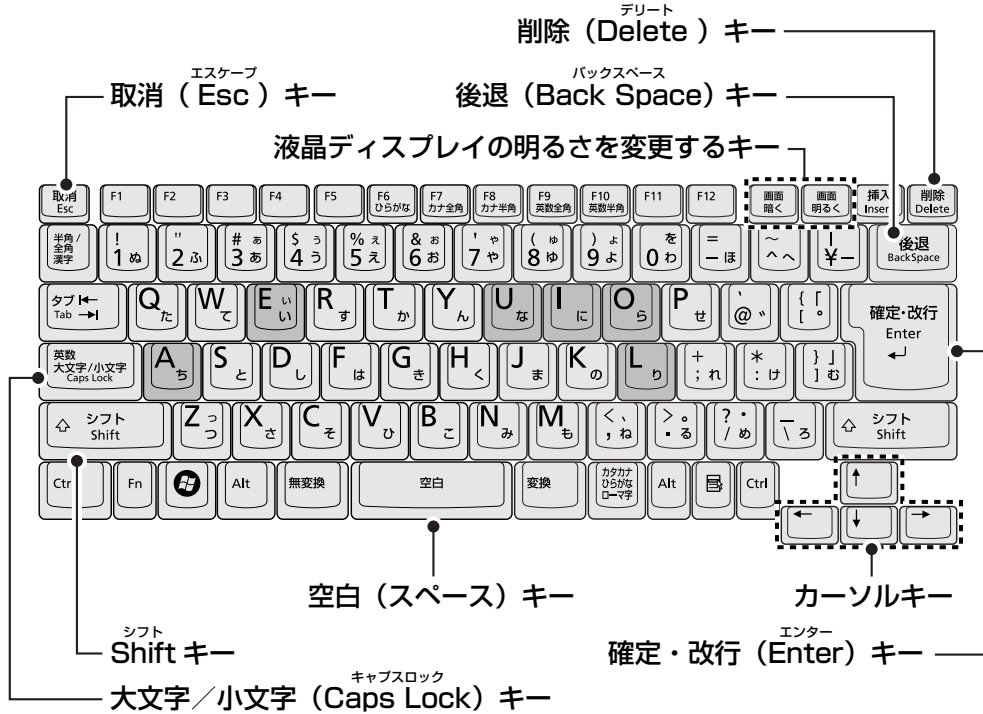
内蔵バッテリパック
内蔵バッテリパックが装着されています。（P.27）

パソコン本体下面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000210」で検索→「各部の名称と働き：パソコン本体」→「パソコン本体下面」

各部の名称と働き

キーボード

文字の入力のしかたについては、添付の『ローマ字入力表』をご覧ください。

取消（Esc）キー
現在の作業を取り消します。

シフト（Shift）キー
シフトShiftを押しながら文字キーを押すと、キーにオレンジ色で刻印されている記号を入力できます。

大文字／小文字（Caps Lock）キー

を押しながらを押して、英大文字入力／小文字入力を切り替えます。

液晶ディスプレイの明るさを変更するキー
このキーで、液晶ディスプレイの明るさを変更することができます。（→P.43）

確定・改行（Enter）キー
入力した文字や記号を確定するときや、改行するときにこのキーを押します。

削除（Delete）キー
文字入力を間違えたときにこのキーを押すと、カーソルの右側にある 1 文字を削除できます。

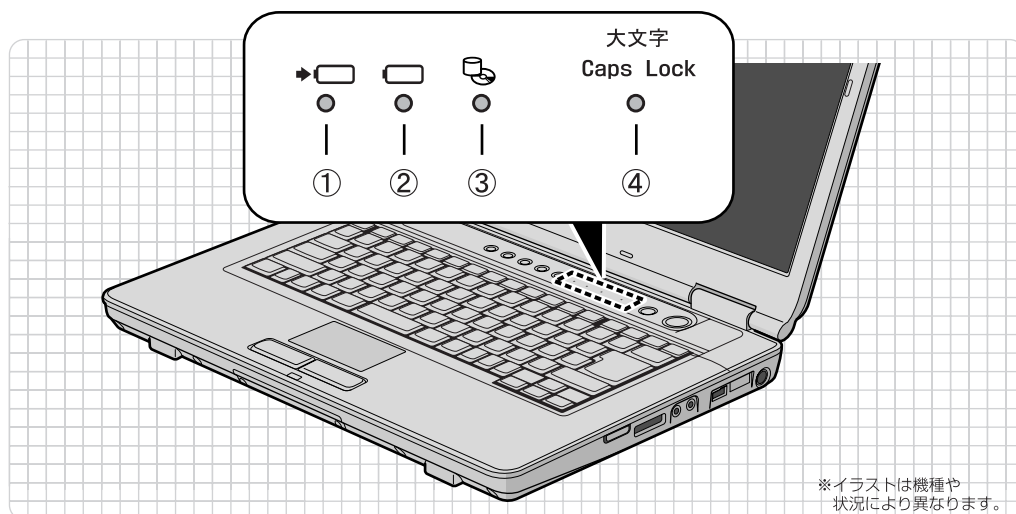
後退（Back Space）キー
文字入力を間違えたときにこのキーを押すと、カーソルの左側にある 1 文字を削除できます。

カーソルキー
カーソルを上下左右に移動します。

空白（スペース）キー
- 入力した文字を変換するときにこのキーを押します。
  変換後の文字が違ったら、もう一度このキーを押し、次の変換候補を呼び出します。
- 文字を入力していない状態でこのキーを押すと、1 文字分の空白（スペース）を作ることができます。

その他のキーや詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照
『画面で見るマニュアル』»「000210」で検索→「各部の名称と働き：パソコン本体」→「キーボード」

状態表示 LED

① **バッテリ充電ランプ（→▭）**
パソコンにAC アダプタが接続されている場合に、バッテリの充電状態を表示します。
（→P.25）

② **バッテリ残量ランプ（▭）**
バッテリの残量を表示します。（→P.26）

③ **ディスクアクセスランプ（ ）**
内蔵ハードディスクやCD、DVDにアクセスしているときに点灯します。

④ **大文字（Caps Lock）ランプ（ ）**
英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。
【大文字/小文字（Caps Lock）】キー（→P.15）

状態表示LEDの各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000210」で検索→「各部の名称と働き：パソコン本体」→「状態表示LED」

第2章

パソコンの取り扱い

最初に確認していただきたいことと、使用上の注意事項などを説明しています。

1　電源を入れる／切る 18
2　バッテリで使う 25
3　マウスを使う 29
4　フラットポイントを使う 33
5　タッチ機能を使う 36
6　音量を調節する 42
7　液晶ディスプレイの明るさを調節する 43
8　CD/DVD を使う 44
9　メモリーカードを使う 53
10　LAN 機能を使う 59

2

パソコンの取り扱い

電源を入れる／切る

電源の入れ方と切り方はとても重要です。正しい方法を覚えてください。

電源を入れる

ここでは Windows を起動する方法を説明しています。

重要　電源を入れるときの注意

- 電源を入れてから Windows が起動するまでは、キーボードやマウス、フラットポイントでの操作、および、指やペンでのタッチはしないでください。正常に起動できなくなる場合があります。
- パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリ切れによるデータ消失などを防ぐため、必ず AC アダプタを取り付けてください。

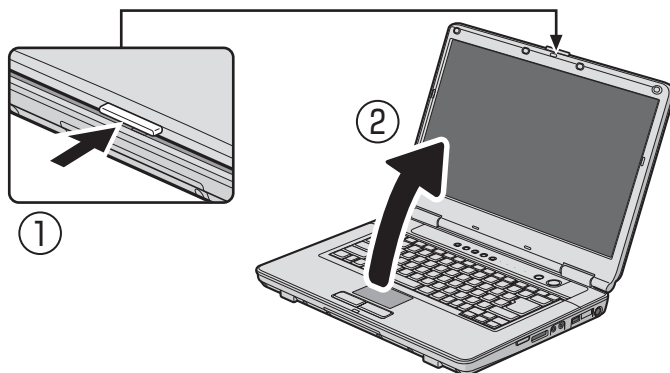
⚠警告

- 落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。
  雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
- AC アダプタは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
  誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体が故障する原因となります。

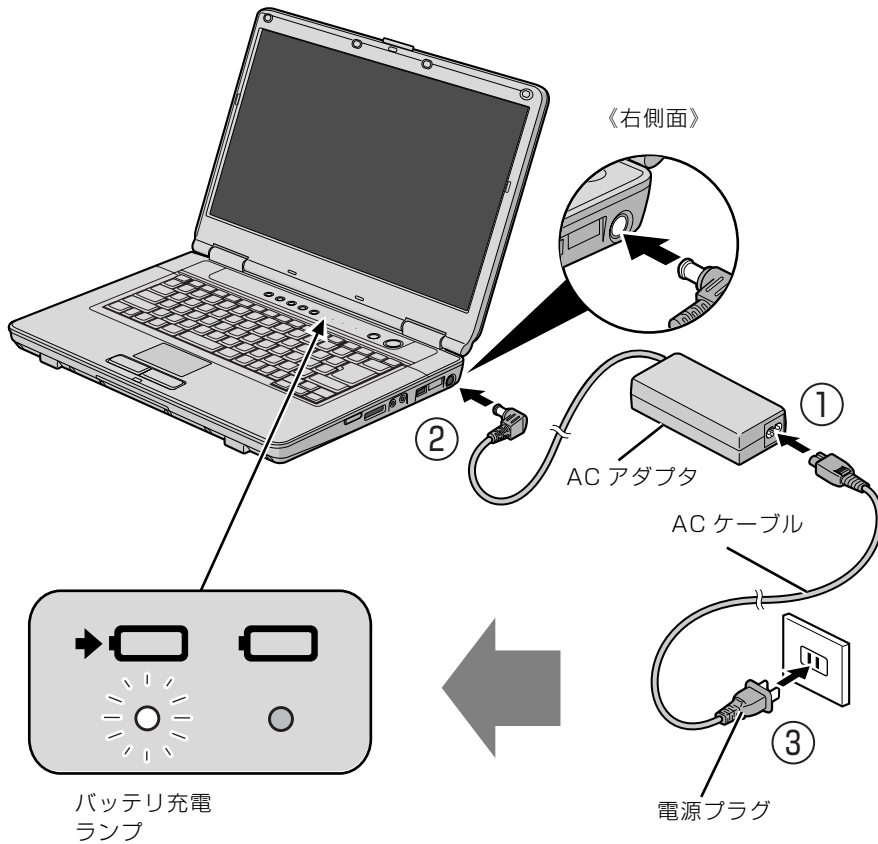
Point　AC アダプタが熱くなることがあります

パソコンの使用中は、AC アダプタが熱くなることがありますが、故障ではありません。

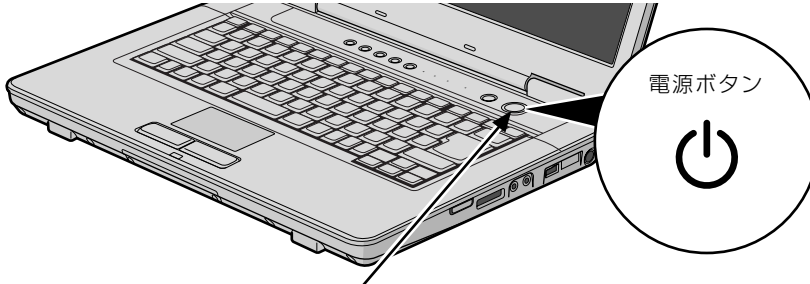
1 液晶ディスプレイを開きます。

ラッチを押してロックを外し、パソコン本体とラッチ部分の両方に手を添えて開きます。

2 AC アダプタを接続します。

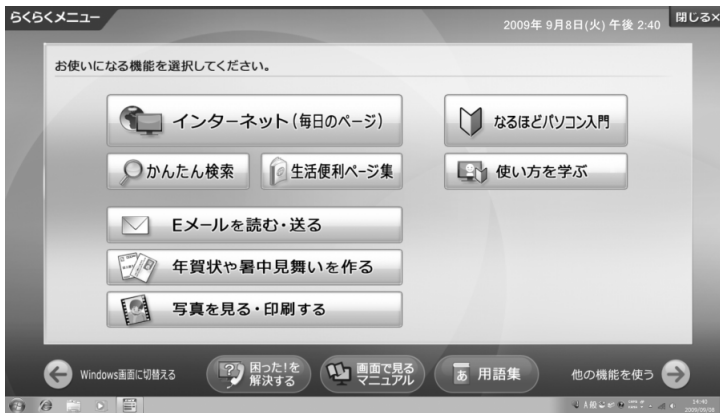
1. AC アダプタに AC ケーブルを接続します。
2. パソコン本体の DC-IN［ディーシーイン］コネクタに接続します。
3. 電源プラグをコンセントに接続します。

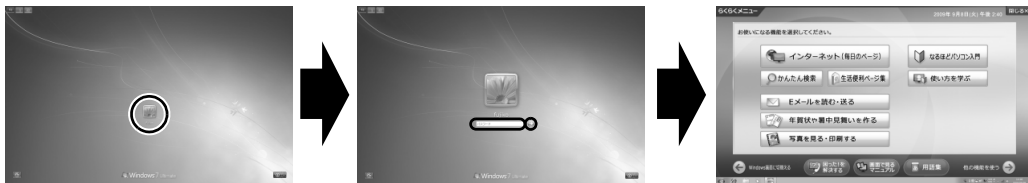
AC アダプタは差し込み口の形状をよく確認して、奥までしっかりと差し込んでください。正しく接続すると、状態表示 LED［エルイーディー］のバッテリ充電ランプ（⇨□）が点灯します。

（イラストは機種や状況により異なります）

3 電源ボタン（⏻）を押します。

電源ボタンは、4 秒以上押し続けないようにしてください。

電源ボタンが点灯します
（イラストは機種や状況により異なります）

電源が入ると、電源ボタンが点灯し、画面に文字などが表示されます。

4 次のような画面が表示されたことを確認します。

Point Windows のログオンパスワードを設定している場合

お使いのユーザー名をクリックします。Windows のログオンパスワードを入力し、➡をクリックします。

（これ以降の画面は、機種や状況により異なります）

Windows のパスワードについては、（スタート）→「ヘルプとサポート」をクリックして Windows のヘルプを表示し、「パスワード」で検索して「コンピューターをパスワードで保護する」をご覧ください。

Point **Windows が起動しない場合**

次の点を確認してください。
- ・AC アダプタを接続している場合
  AC アダプタが正しく接続されているか確認してください。
  「電源を入れる」（→ P.18）
- ・バッテリで使う場合
  バッテリの残量が充分にあるかを確認し、残量が少ない場合は AC アダプタを接続してください。バッテリ残量が少ないと電源を入れても Windows が起動しないことがあります。
  「バッテリの充電状態や残量を確認する」（→ P.25）

これらの点を確認しても Windows が起動しない場合は、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『トラブル解決ガイド』
→「Q&A 集」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「起動／終了」

重要 しばらく操作しないと

電源を入れた状態でしばらく（約 5 分間）操作しないと、動画（スクリーンセーバー）が表示されたり、画面が真っ暗になったりすることがありますが、電源が切れたわけではありません。これはパソコンの省電力機能が働いている状態です。
マウスを動かしたり、画面をタッチしたり、キーボードのどれかのキーを押したりすると、元の画面に戻ります。

電源を切る

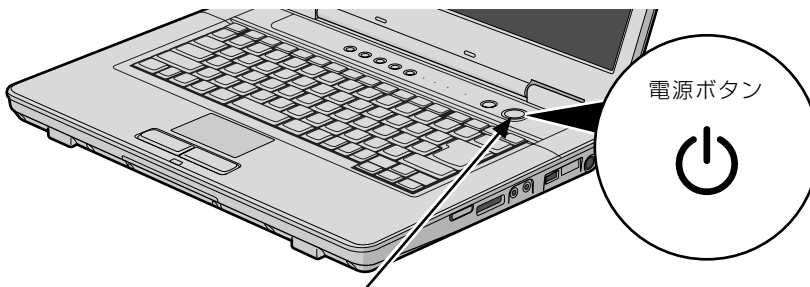
1 作業中のデータがある場合は、保存してからソフトウェアを終了します。

例えば、文書を作成中の場合は、文書を保存してからソフトを終了します。

2 CD や DVD をセットしている場合は、取り出します。

CD や DVD の取り出し方については、「ディスクをパソコンにセットする／取り出す」（→P.48）をご覧ください。
パソコンの電源が切れると、CD や DVD は取り出せません。

3 電源ボタン ⏻ を押します。

電源ボタンは 4 秒以上押し続けないようにしてください。

（イラストは機種や状況により異なります）

しばらくすると Windows が終了し、パソコンの電源が自動的に切れます。

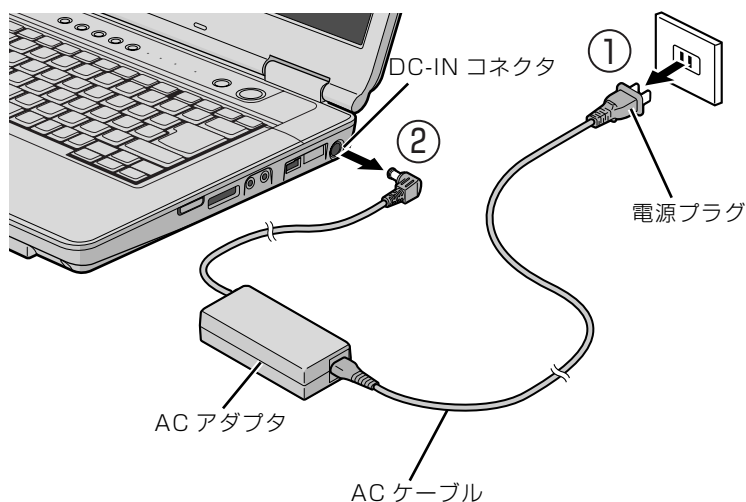
Point パソコンが動かなくなり操作できない場合

キーボードやマウス、フラットポイント、および指やペンでのタッチ操作ができないなど、電源を切る操作ができないときは、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『トラブル解決ガイド』
→「Q&A 集」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「起動／終了」

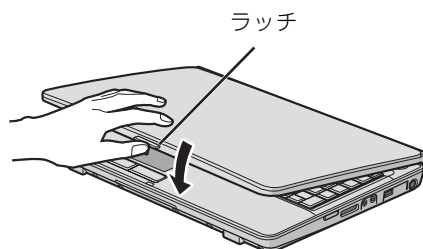
4 電源ボタンのランプが消えたことを確認し、AC アダプタを取り外します。

① AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜きます。
② AC アダプタを DC-IN コネクタから取り外します。

（イラストは機種や状況により異なります）

重要 電源を切っても電力を消費します

- パソコンは電源を切った状態でも少量の電力を消費します。そのため、AC アダプタを取り外した状態ではバッテリの残量が少しずつ減っていきます。
  長時間 AC アダプタを取り外していた場合は、お使いになる前に AC アダプタを接続してから電源を入れてください。
  バッテリの残量を減らさないためには、AC アダプタを接続しておいてください。また、長期間パソコンを使用しない場合には内蔵バッテリを外してください。
- 内蔵バッテリパックを取り外していた場合は、お使いになる前に必ず内蔵バッテリを取り付けてから電源を入れてください。また、バッテリパックを取り付ける際には、内蔵バッテリパックに変形や破損の無いことをご確認のうえ、取り付けを行ってください。

5 液晶ディスプレイを閉じます。

液晶ディスプレイは、ラッチ部分に手を添え、文房具や添付のペンなどを挟まないように注意して静かに閉じてください。

パソコンを持ち運ぶときや、周辺機器の取り付け／取り外しをするとき、パソコンを長時間使わないときは、必ず AC アダプタを取り外してください。

重要 液晶ディスプレイを閉じるときの注意

液晶ディスプレイは、ラッチ部分に手を添えて、静かに閉じてください。液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

Point 「スタート」メニューからも電源を切ることができます

1. (スタート)→ シャットダウン の順にクリックします。
   電源が切れます（画面が暗くなり、電源ボタンが消灯します）。

Point 電源を切らずに液晶ディスプレイを閉じた場合

このパソコンは、電源を切らずに液晶ディスプレイを閉じると休止状態になります。
休止状態について、詳しくは次のマニュアルをご覧ください。

参照 省電力機能について

『画面で見るマニュアル』»「000410」で検索
→「省電力機能を使う」

Point AC アダプタを保管するときの注意

パソコン本体から取り外した AC アダプタは、AC アダプタ本体や AC ケーブルが、変形したり、割れたり、傷が付かないように保管してください。
保管の際には、AC アダプタに AC ケーブルを巻き付けたりしないでください。
次回使用時に AC アダプタ本体や AC ケーブルの変形や割れ、傷を見つけた場合は、使用しないでください。

バッテリで使う

このパソコンは、AC アダプタを使わずに、バッテリのみで動作させることができます。
ここでは、バッテリの充電方法、バッテリの充電状態や残量を確認する方法、内蔵バッテリパックの交換方法について説明しています。

重要 バッテリのみで使用する場合は

バッテリが充電されているか確認してください。特にご購入時にはバッテリが充電されていない場合があるので、ご注意ください。

バッテリを充電する

1 パソコンに AC アダプタを接続します。

充電が始まり、バッテリ充電ランプが点灯します。
充電中は、バッテリ充電ランプがオレンジに点灯します。
AC アダプタを接続する方法については、「電源を入れる」（→P.18）をご覧ください。

2 バッテリ充電ランプがグリーン点灯に変わったことを確認し、AC アダプタを取り外します。

バッテリの充電状態や残量を確認する

バッテリの充電の確認は、バッテリ充電ランプ／バッテリ残量ランプで行います。
バッテリ充電ランプ（）／バッテリ残量ランプ（）は、次のように表示されます。

バッテリ充電ランプ （）

状態	充電ランプの表示
AC アダプタを接続し、充電中	オレンジ点灯（）
AC アダプタを接続し、充電終了（満充電時）	グリーン点灯（）
AC アダプタ接続（バッテリ未装着）時	
AC アダプタ未接続（充電していない）時	消灯

次の場合、バッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。
・内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなった場合
・冷やされて温度が低くなったときに、バッテリの保護機能が働いて充電を停止している場合
内蔵バッテリパックの温度が平常に戻ると、オレンジ点灯になり充電を再開します。

バッテリ残量ランプ （）

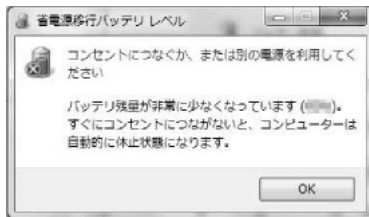
	動作時／ スリープ時、休止状態、 電源OFF時（充電中）	スリープ時 （非充電中 [注1]）	休止状態、 電源OFF時 （非充電中 [注1]）
バッテリ残量　100 ～ 50%	グリーン点灯（）	ゆっくりグリーン点滅 （）	消灯
バッテリ残量　49 ～ 13%	オレンジ点灯（）	ゆっくりオレンジ点滅 （）	
バッテリ残量　12%以下 （LOW［ロウ］バッテリ状態） ［注 2］	レッド点灯	ゆっくりレッド点滅 （）	
バッテリパック未装着時	消灯		
バッテリ異常時［注 3］	レッド点滅		

注 1：満充電時または AC アダプタ未接続時
注 2：LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。
注 3：バッテリが正常に取り付けられていない場合、または故障している場合

重要 **次の場合は、バッテリの状態を確認してください。**

・短い間隔でレッド点滅：バッテリが正しく充電できていません。パソコン本体の電源を切って、バッテリを取り付け直してください。
・レッド点灯／点滅　　：バッテリ残量が少なくなっています（LOW バッテリ状態）。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリを充電してください。

重要 **バッテリ残量不足の表示について**

バッテリ残量が少なくなると、バッテリの残り時間とバッテリ残量の不足を案内するメッセージや、「省電源移行バッテリレベル」ウィンドウが表示されます。

バッテリについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照 **バッテリについて**

『画面で見るマニュアル』»「000590」で検索
→「バッテリで使う」

内蔵バッテリパックを交換する

⚠警告

・バッテリパックの交換を行う場合は、パソコンの電源を必ず切り AC アダプタを取り外してください。また、パソコンやバッテリパックのコネクタに触れないでください。
感電や故障の原因となります。

バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。
稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリパックに交換してください。
このパソコンには、次のバッテリパックが取り付けられます。

商品名：Li-ion バッテリパック　FM-61D
商品番号：0644640

お問い合わせ先
富士通コワーコ株式会社　お客様総合センター
電話：0120-505-279
受付時間：月～金／ 9:00 ～ 17:30（祝日・年末年始除く）
URL：http://jp.fujitsu.com/coworco/

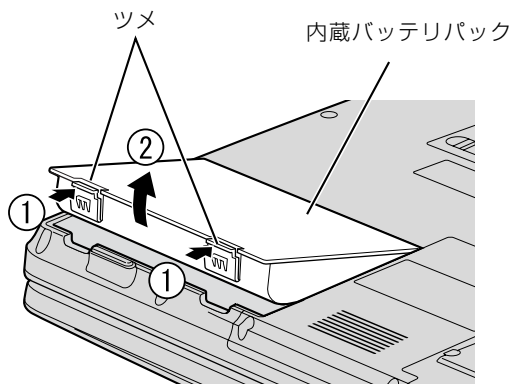
1 パソコンの電源を切り、AC アダプタを取り外します。

電源の切り方は、「電源を切る」（→P.22）をご覧ください。

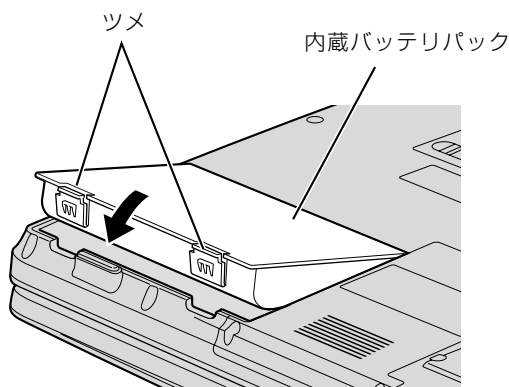
2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

液晶ディスプレイに、文房具や添付のペンなどを挟まないようにして静かに閉じてください。

3 内蔵バッテリパックを取り外します。

①ツメを矢印の方向に押しながら、②内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げて取り外します。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

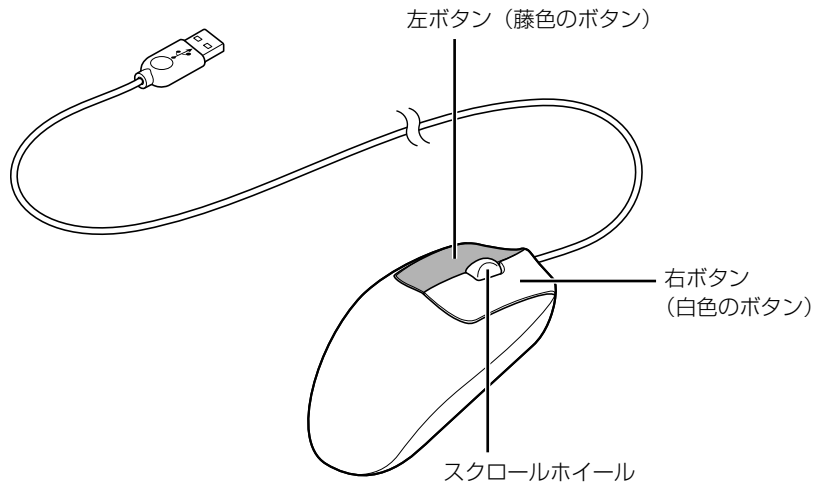
4 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

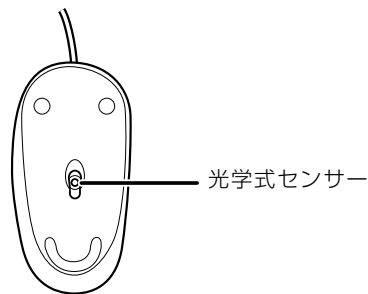
新しい内蔵バッテリパックを斜め上から差し込み、ツメがカチッと音がするまでしっかりはめこみます。

重要 取り外したバッテリパックについて

- 取り外した内蔵バッテリパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外した内蔵バッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。
- 内蔵バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
  バッテリパックのリサイクルについては、『トラブル解決ガイド』→「廃棄・リサイクル」→「廃棄に関するご注意」をご覧ください。

マウスを使う

ここでは、このパソコンに添付されている USB[ユーエスビー] マウス（光学式）について説明しています。

マウスについて

光学式マウスのしくみ

このパソコンに添付されている光学式マウスは、裏面に光学式読み取りセンサーが付いています。マウスを机の上などですべらせると、マウス裏面から出された赤い光の陰影を光学式センサーで検知し、画面のマウスポインターが動くようになっています。

光学式マウスをお使いになるうえでの注意

- マウス底面から発せられている赤い光は、眼に悪い影響を与えることがあります。直接見ないようにしてください。
- センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 発光部分を他の用途に使用しないでください。
- 次のようなものの表面では、マウスが正しく動作しない場合があります。
  - 鏡やガラスなど反射しやすいもの
  - 光沢のあるもの
  - 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
  - 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- このマウスは特にマウスパッドを必要としませんが、傷がつきやすい机やテーブルの上では、傷防止のためにマウスパッドなどを使用することをお勧めします。

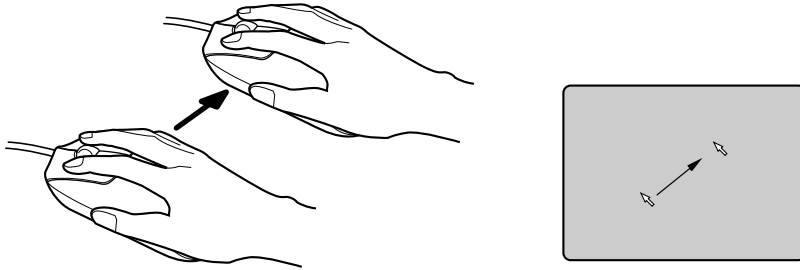
マウスの接続方法について、詳しくは、次のマニュアルをご覧ください。

参照 マウスの接続方法について

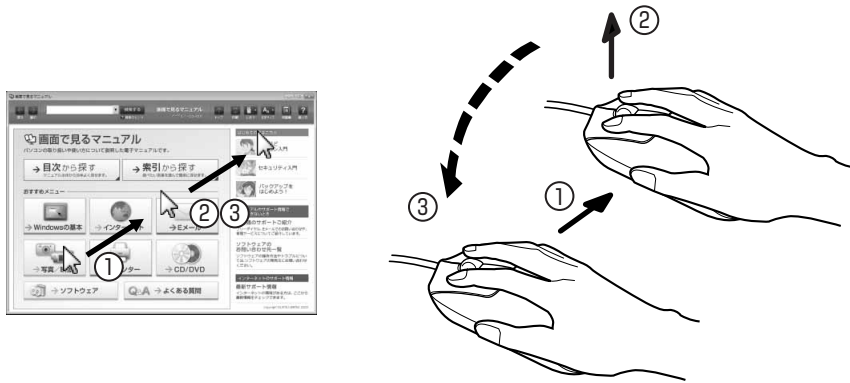
『画面で見るマニュアル』»「000680」で検索
→「マウスを接続する」

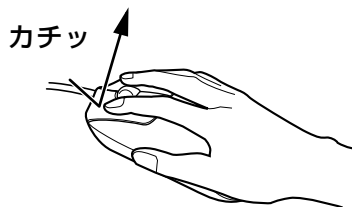
マウスの使い方

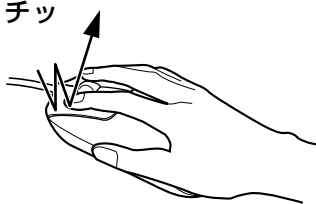
マウスポインター（ ）を移動させる

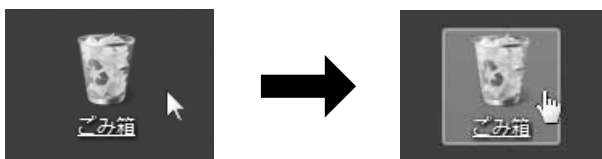
マウスを動かすことで、画面上のマウスポインター（ ）を移動させます。

（これ以降のイラストは状況により異なります）

Point マウスポインターを大きく動かしたい場合は

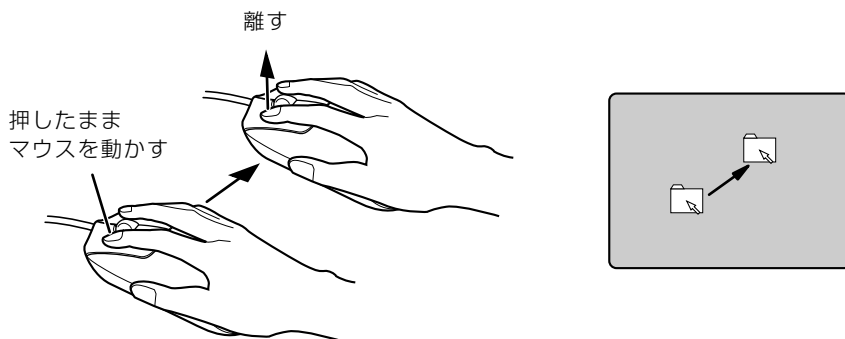
①マウスを動かしているときに、②いったんマウスを持ち上げて、③マウスを始めの位置に戻し、もう一度マウスを動かしてください。マウスを持ち上げてもマウスポインターは動きません。

クリック

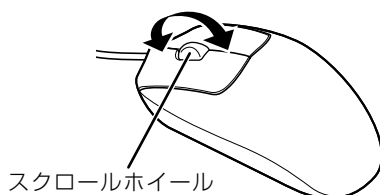
左ボタン（藤色のボタン）をカチッと1回押して、すぐに離すことです。
また、右ボタン（白いボタン）を 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

ダブルクリック

左ボタン（藤色のボタン）をカチカチッと素早く２回押して、すぐに離すことです。

ポイント

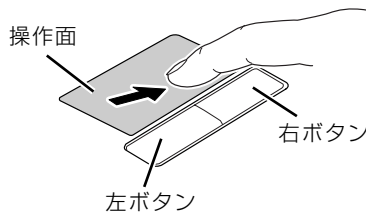
マウスポインターをアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されます。

（画面は機種や状況により異なります）

ドラッグ

左ボタン（藤色のボタン）を押したままマウスを動かし、希望の位置で左ボタンから指を離します。

画面のスクロール

スクロールボタンを前後に回すことで、画面の表示を上下にスクロールさせる（動かす）ことができます。

フラットポイントを使う

フラットポイントについて

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある 2 つのボタンで構成されています。
この操作面を指先でなぞることで、マウスを使わずに画面上のマウスポインターを移動させることができます。
左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はお使いになるソフトウェアにより異なります。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

Point フラットポイントをお使いになるときの注意

フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませて絞った柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

Point マウスと同時に使用することはできません

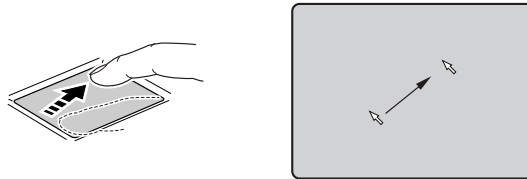
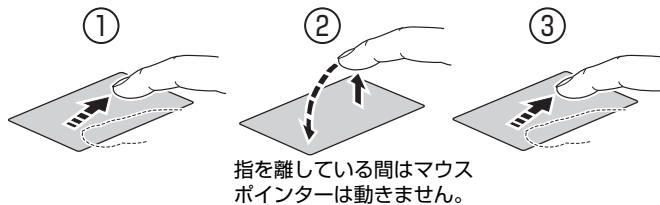
マウスを接続すると、フラットポイントの操作はできなくなります。
USB マウスを接続した状態で、フラットポイントをお使いになりたい場合は、次のマニュアルをご覧ください。

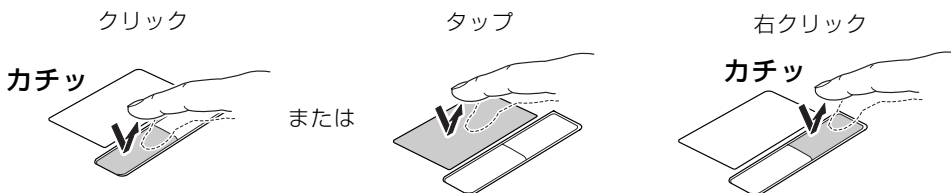
参照 フラットポイントの設定を変更する

『画面で見るマニュアル』»「000640」で検索
→「フラットポイントを使う」

フラットポイントの使い方

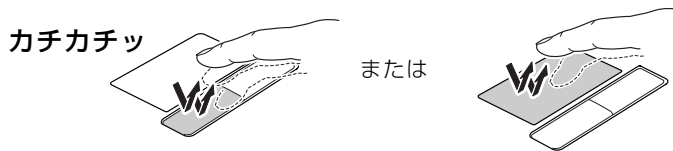
マウスポインター（ ）を移動させる

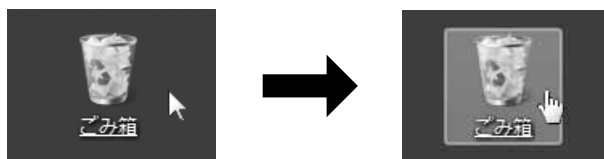
操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインター（ ）も、同じように移動します。

指が操作面の端まできたら、いったん操作面から指を離して、もう一度別の位置からなぞってください。指を離している間は、マウスポインターは動きません。

クリック

左ボタンをカチッと1回押して、すぐに離すか、操作面を 1 回タップ（軽くたたく）ことです。
また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。
マウスの「クリック」と同じ操作です。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

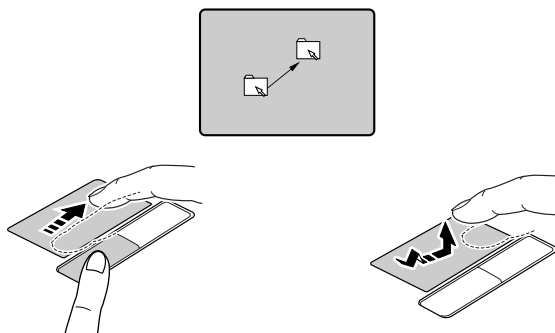
操作面をタップするときは、なるべく操作面の中央部分をたたくようにしてください。また、操作面をタップするときや離すときに、 の位置がずれないように、気をつけてください。

ダブルクリック

左ボタンをカチカチッと素早く２回押して、すぐに離すか、操作面を２回連続してタップすることです。
マウスの「ダブルクリック」と同じ操作です。

ポイント

マウスポインターをアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されます。
マウスの「ポイント」と同じ操作です。

（画面は機種や状況により異なります）

ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインターでつかむようにして移動させる方法です。
左ボタンを押したまま操作面をなぞり、希望の位置で指を離します。
または、操作面を素早く２回タップし、２回目のタップのときに指を操作面上から離さずになぞり、希望の位置で指を離します。
マウスの「ドラッグ」と同じ操作です。

フラットポイントについては、次のマニュアルもご覧ください。

参照 **フラットポイントについて**

『画面で見るマニュアル』»「000640」で検索
→「フラットポイントを使う」

タッチ機能を使う

このパソコンには、液晶ディスプレイを直接指先でタッチして操作できるタッチ機能を搭載しています。ここでは、タッチ機能を使った操作について説明しています。

タッチ機能とは

タッチ機能とは、キーボードやマウスを使わずに、液晶ディスプレイを指で直接タッチして操作することができる機能です。添付のペンでも同じ操作ができます。
マウスやキーボードを使わないので、マウスやキーボードでの操作が苦手な方でも、簡単に操作することができます。

タッチ機能を使ってできること

このパソコンでは、タッチ機能を使って、次の操作ができます。

- 指先や、添付のペンでマウスポインターを動かしたり、マウスと同じように「クリック」「ダブルクリック」「ドラッグ」などの操作をしたりする
- 「タッチ文字入力」などを使った、キーボードを使わない文字入力をする

次のマニュアルでは、この他にも、タッチ機能を使ったさまざまな操作を紹介しています。

参照

『画面で見るマニュアル』»「002060」で検索
→「タッチ機能を使う」

タッチ機能についての注意

タッチ機能を使うときは、次の点に注意してください。

- 液晶ディスプレイをタッチするときは、強く押さないでください。
- 液晶ディスプレイ表面を引っかいたり、添付のペン以外の先のとがったものや、固いものでつついたりしないでください。パソコンが転倒したり、液晶ディスプレイが破損したりするおそれがあります。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- ソフトウェアによっては、タッチ機能の反応が悪かったり、タッチ機能に対応していない場合があります。
  このような場合は、マウス、またはフラットポイントを使用してください。
- 液晶ディスプレイを指でタッチするときは、添付のペンと同時に操作したり、ペンを手に持って操作したりしないでください。
- 液晶ディスプレイに、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能の反応が低下する場合がありますので、液晶ディスプレイは、定期的に清掃してください。
  液晶ディスプレイの清掃方法については、「液晶ディスプレイのお手入れ」（P.77）をご覧ください。

重要 液晶ディスプレイをタッチするときの注意

液晶ディスプレイをタッチするときは、強い力で押したり、添付のペン以外の先の尖ったもので突いたりしないでください。パソコンが転倒したり、液晶ディスプレイが破損したりする恐れがあります。

Point ペンを使うときは、次の点に注意してください

・操作は必ず添付のペンで行ってください。ボールペンなどで操作すると、パネルが汚れたり、傷がついたりします。
・液晶ディスプレイを閉じる場合は、添付のペンなどを挟まないように注意してください。
・ペン先が引っ込まない程度の力で操作してください。過度の力を加えると、タッチパネルやディスプレイが破損するおそれがあります。
・ペンを使ってタッチ操作をするときは、画面に手が触れないように気をつけてください。手で触ってしまうとマウスポインタが動いてしまいます。

Point 予備のペンについて

ペンを破損したり紛失したときは予備のペンをご購入ください。
このパソコンでは次のペンがお使いになれます。

商品名：タッチパネル用ペン（B82 シリーズ）
商品番号：0637170

お問い合わせ先
富士通コワーコ株式会社　お客様総合センター
電話：0120-505-279
受付時間：9:00 ～ 17:30（土・日・祝日・年末年始除く）
URL：http://jp.fujitsu.com/coworco/

タッチ機能を使う

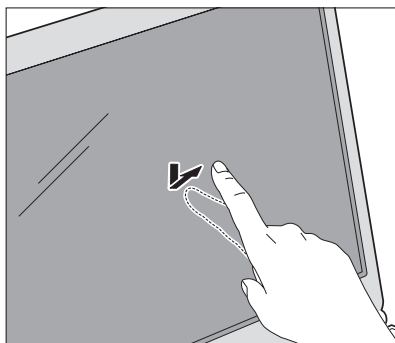
ここでは、タッチ機能を使った主な操作について説明します。

Point　添付のペンも使えます

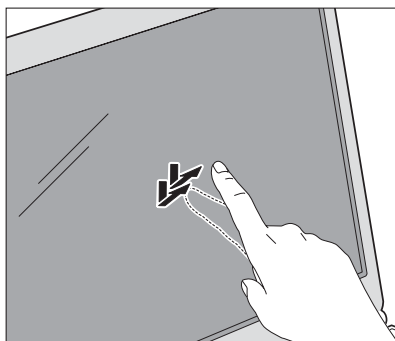
ここで説明している操作は、添付のペンでも行うことができます。
ペンで操作する場合は、強い力で突いたりしないように注意してください。

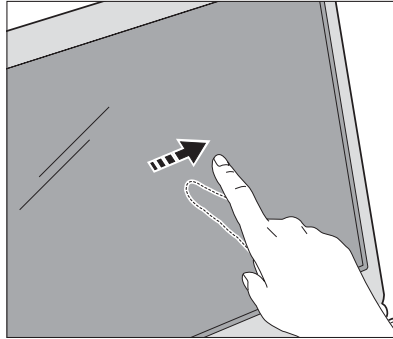
マウスと同じ操作

タップ

画面を 1 回軽くたたくか、ペンで画面を 1 回軽く押します。これをタップといいます。
マウスの「クリック」と同じ操作です。

（これ以降のイラストは指で操作する場合の説明です）

ダブルタップ

画面を 2 回連続して軽くたたくか、ペンで画面を 2 回連続して軽く押します。
マウスの「ダブルクリック」と同じ操作です。

■ ドラッグ

画面に指、またはペンを軽く押し付けながら、なぞります。
アイコンやウィンドウをつかむようにして移動させる方法です。
マウスの「ドラッグ」と同じ操作です。

「らくらく操作パネル」で操作する

「らくらくメニュー」で、「インターネット（毎日のページ）」をタッチすると、画面の右横に「らくらく操作パネル」が表示されます。「らくらく操作パネル」では、使いたいメニューを直接タッチして操作することができます。

「タッチ文字入力」を使って文字を入力する

「タッチ文字入力」を使って、ホームページを検索する方法について説明します。

1 「毎日のページ」の検索バー（文字入力が可能な領域）を指、またはペンで 1 回タッチします。

文字入力する場所の近くに「あ」というアイコンが表示されます。

（以降の画面は状況により異なります）

2 画面上に表示された あ タッチ文字入力 をタッチします。

「タッチ文字入力」画面が表示されます。

3 表示された「タッチ文字入力」画面の文字にタッチして入力していきます。

Point 予測入力が使えます

例えば、「とし」と入力すると、「都市」「図書館」など、「とし」ではじまることばの候補が表示されます。候補の中に目的のことばがあれば、タッチして選択します。

4 入力が終わったら、「閉じる」をタッチして、「タッチ文字入力」画面を閉じます。

検索バーに、入力した文字が表示されます。

5 をタッチします。

画面上に、検索結果が表示されます。

「らくらく操作パネル」と「タッチ文字入力」については、次のマニュアルもご覧ください。

参照 らくらく操作パネル

『画面で見るマニュアル』»「211130」で検索
→「らくらく操作パネル」

参照 タッチ文字入力

『画面で見るマニュアル』»「211110」で検索
→「タッチ文字入力」

音量を調節する

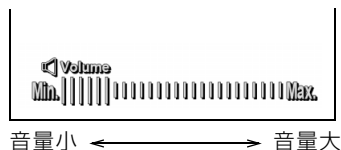
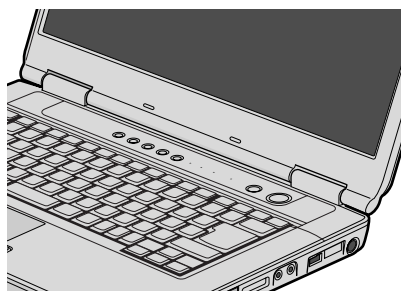
スピーカーやヘッドホンの音量は、音量調節ボタンで調節できます。

重要 スピーカーが故障する原因となる場合があります

音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。

1 パソコン本体の音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。

「小」ボタンを押すと音が小さく、「大」ボタンを押すと音が大きくなります。
調節中は、画面下部に音量を示す表示が出ます。

音量小 ←→ 音量大

（イラストは状況により異なります）

音を出さないようにしたい場合は Column

音を出したくない場合は、次の手順で消音（ミュート）することができます。

1. 画面右下の通知領域にある（音量）をクリックします。
   音量調節つまみが表示されます。
2. 音量調節つまみの下にあるをクリックし、にします。
   これで、音はでなくなります。

再度音を出す場合は、をクリックし、にします。

その他、音量調節については、次のマニュアルをご覧ください。

参照 **音量を調節する**

『画面で見るマニュアル』»「000190」で検索
→「音量を調節する」

液晶ディスプレイの明るさを調節する

キーボードの【画面明るく】【画面暗く】キーで、画面の明るさを 8 段階に変更できます。

1 明るさを設定します。

■明るくする場合

【画面明るく】キーを押す

■暗くする場合

【画面暗く】キーを押す

画面下部に明るさを示す表示が出ます。

暗い ←→ 明るい

Point 明るさの設定について

・パソコンを再起動したり、スリープから復帰したり、AC アダプタの接続や取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。このような場合は、しばらく時間をおいてから変更してください。
・ご購入時は、AC アダプタを接続している場合は明るく、バッテリで使っている場合は少し暗くなるように設定されています。
・明るさは、AC アダプタを接続している場合と、バッテリで使っている場合とで別々に設定できます。
明るさの設定については、次のマニュアルもご覧ください。

参照 液晶ディスプレイの明るさの設定について

『画面で見るマニュアル』»「000180」で検索
→「液晶ディスプレイの明るさを変更する」

パソコンの取り扱い

CD/DVD を使う

このパソコンでは、CD や DVD の再生や読み出し／書き込みを行うことができます。
ここでは、CD、DVD を総称してディスクと呼んでいます。

例えば、次のような操作ができます。

- 音楽 CD を聴いたり、DVD を見たりする
- 音楽を取り込む
- パソコンに保存されている音楽データで、音楽 CD を作る
- CD や DVD にデータを保存する

これらの操作方法について、詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

参照　CD や DVD で楽しむ

『画面で見るマニュアル』
→「おすすめメニュー」→「CD/DVD」

使えるディスク／使えないディスク

使えるディスク

CD や DVD にはさまざまな種類があります。このパソコンでお使いになることのできる CD や DVD は、次のとおりです。

	種別	読みかたの例
CD	**CD-ROM**	シーディーロム
	CD-DA（音楽 CD）	シーディーディーエー
	フォト CD	フォトシーディー
	ビデオ CD	ビデオシーディー
	CD-R	シーディーアール
	CD-RW	シーディーアールダブル
DVD	**DVD-ROM**	ディーブイディーロム
	DVD-VIDEO	ディーブイディービデオ
	DVD+R	ディーブイディープラスアール
	DVD+RW	ディーブイディープラスアールダブル
	DVD+R DL	ディーブイディープラスアールダブルレイヤー
	DVD-R	ディーブイディーアール ディーブイディーマイナスアール
	DVD-RW	ディーブイディーアールダブル ディーブイディーマイナスアールダブル
	DVD-R DL	ディーブイディーアールデュアルレイヤー ディーブイディーマイナスアールデュアルレイヤー
	DVD-RAM［注］	ディーブイディーラム

注：DVD-RAM は、お使いになる前にフォーマットが必要です。

参照 DVD-RAM をフォーマットする

『画面で見るマニュアル』»「000060」で検索
→「ディスクをフォーマットする」

このパソコンのCD/DVD ドライブの読み込み／書き込み／書き換え速度については、「CD/DVD ドライブ」（P.86）をご覧ください。

重要 DVD-RAM について

- カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。
- 2.6GB および 5.2GB のディスクは、使用できません。

推奨ディスク　2009 年 9 月現在

次の CD や DVD の使用をお勧めします。

次の表に記載のない CD や DVD をお使いの場合は、書き込み／書き換え速度が低下することがあります。また、下記以外の DVD-RW または DVD+RW をお使いの場合は、書き込みが正常に行えない場合や、再生できない場合があります。

	メーカー	メーカー型名
CD-R	太陽誘電 (That's)	CDR80WTY、CDR80WPY
CD-RW	三菱化学メディア	SW74QU1、SW74EU1、SW80QU1、SW80EU1
DVD-R	太陽誘電 (That's)	DR-47WTY20AA、DR-47WPY30AA、DR-47WTY50BNT、DR-47WKY10SN
DVD-R DL	三菱化学メディア	DHR85H1
DVD-RW	日本ビクター	VD-W47H
	三菱化学メディア	DHW47R1
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47M（4.7GB、カートリッジ無）、LM-HB47MA（4.7GB、カートリッジ有、取り出し可）、LM-HB94M（9.4GB、カートリッジ有、取り出し可）
	日立マクセル	DRM47PWC.S1P5S A（4.7GB、カートリッジ無）
DVD+R	三菱化学メディア	DTR47J10
	太陽誘電 (That's)	DR+47WTY10PN
DVD+R DL	三菱化学メディア	DTR85H1
DVD+RW	三菱化学メディア	DTW47U1

使えないディスク

次の CD や DVD はお使いにならないでください。

- 円形以外の異形 CD や DVD（星型やカード型などの変形ディスク）
  このパソコンは円形の CD や DVD のみお使いになれます。
  円形以外の異形 CD や DVD をお使いになると故障する場合があります。
  異形 CD や DVD をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 規格外の厚さの DVD 媒体
  DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm 〜 1.5mm と規定しています。
  記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
  規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 傷またはヒビの入った CD や DVD
  傷またはヒビの入った CD や DVD をお使いになるとドライブ内部で破損する場合があります。
- カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM（Type1）
  DVD-RAM は、カートリッジ無しタイプ、またはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをお使いください。なお、カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM を、カートリッジから無理に取り出して使わないでください。

参照 このパソコンで使えるディスク／使えないディスクについて

『画面で見るマニュアル』»「000050」で検索
→「使えるディスクと対応ソフトウェア」

「WinDVD」を使って DVD を再生するときの注意

「WinDVD」の更新について

このパソコンには、DVDを再生するソフトウェア「WinDVD」が用意されています。
「WinDVD」は常に最新の状態に更新してお使いください。「WinDVD」を更新するには、サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）から対応プログラム（随時提供）をダウンロードして、インストールしてください。
ダウンロードの方法については、「ドライバダウンロード」のページにある説明をご覧ください。インストール手順については、アップデートプログラムに添付されている「Readme.txt」をご覧ください。

参照 このパソコンで使えるディスク／使えないディスクについて

『画面で見るマニュアル』»「000070」で検索
→「ディスクを再生するときの注意」

ディスクをパソコンにセットする／取り出す

ここでは、CD や DVD をパソコンにセット、または取り出しをする方法について説明しています。
CD や DVD のセット、または取り出しは、パソコンの電源が入っている状態のときのみ可能です。

CD や DVD をセットする

⚠注意

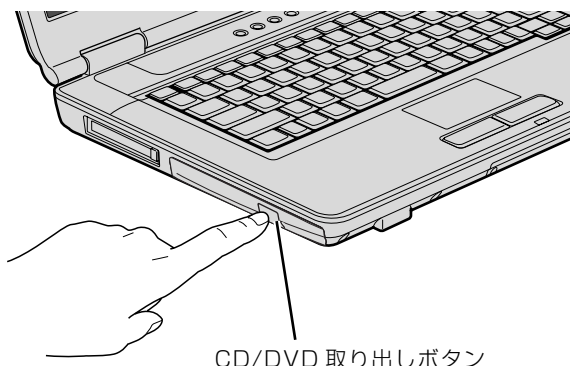
・ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要 CD や DVD をセットするときの注意

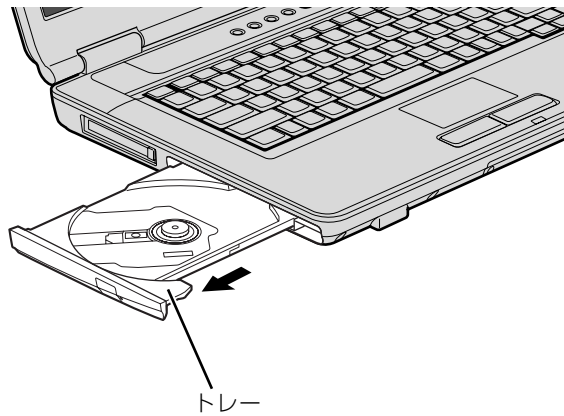
CD や DVD を頻繁に読み込んだり、書き込み、書き換えをしたり、DVD-VIDEO を再生したりする場合は、パソコンに AC アダプタを接続することをお勧めします。AC アダプタを接続する方法については、「電源を入れる」（→P.18）をご覧ください。

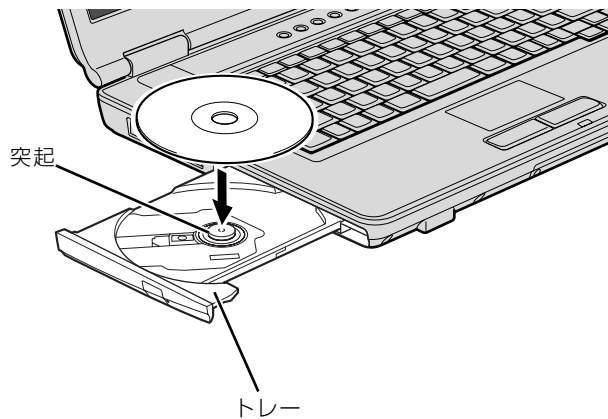
重要 CD や DVD 使用時の風切音について

CD や DVD はデータの読み出しなどの際に高速回転するため、使用時には振動や風切音がすることがあります。

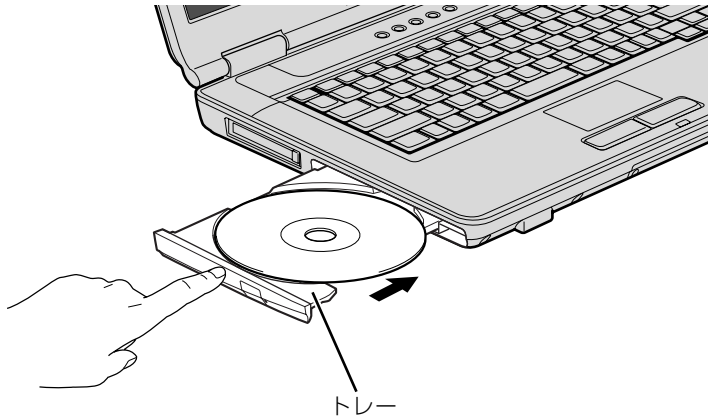
1 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

トレーが少し飛び出します。
状態表示 LED の が点滅中でも操作が可能です。

2 トレーを静かに引き出します。

3 トレーを支えながら、CD や DVD をセットします。

ディスクのレーベル面を上（両面タイプの DVD-RAM の場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を下）にして、トレー中央の突起に CD や DVD の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとセットします。

重要 CD や DVD はパチッと音がするまでしっかりとセットしてください

CD や DVD の穴を突起にきちんとはめ込まないと、CD や DVD がドライブ内部で外れて、読み取りができなかったり、取り出せなくなったりすることがあります。また、トレーやドライブ内部、および CD や DVD を破損する原因となることがあります。

4 トレーを静かに押し込みます。

CD や DVD をセットしてから、パソコンで使えるようになるまで、約 10 秒かかります。

5 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、次のどちらかの操作を行います。

・すでに使いたいソフトウェアが起動している場合は、 をクリックします。
・使いたいソフトウェアが起動していない場合は、表示されている項目の一覧で使いたいソフトウェアをクリックします。

（画面は状況により異なります）

ディスクを取り出す

⚠注意

・ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

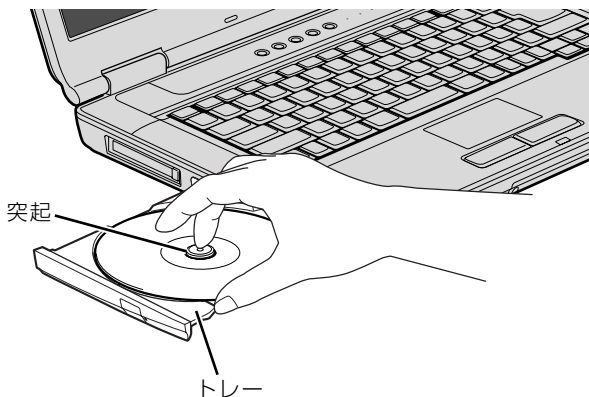
1 ディスクを利用しているソフトウェアがあれば終了します。

2 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。
状態表示 LED のが点滅中でも操作が可能です。

3 トレーを静かに引き出します。

4 トレーを支えながら、ディスクを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。

（イラストは機種や状況により異なります）

5 トレーを静かに押し込みます。

ディスクが取り出せなくなった場合は、次のマニュアルをご覧ください。

参照 ディスクが取り出せなくなった場合は

『画面で見るマニュアル』»「000052」で検索
→「ディスクをパソコンにセットする／取り出す」→「ディスクが取り出せなくなったら」

メモリーカードを使う

このパソコンに搭載されているダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードを直接差し込んで、このパソコンとメモリーカードとの間でデータのやり取りをすることができます。
ここでは、このパソコンでお使いになれるメモリーカードの種類や、メモリーカードの取り扱いについて説明しています。
なお、SD メモリーカード、メモリースティックを総称してメモリーカードと呼んでいます。

メモリーカードを使ってできること

メモリーカードを使うと、例えば、次のような操作ができます。

- デジタルカメラで撮影した写真データをパソコンに取り込む
- パソコンに保存されている写真データをメモリーカードにコピーして、写真店でプリントする
- パソコンで作成したデータをメモリーカードに保存する

写真の取り込み方について、詳しくは、次のマニュアルをご覧ください。

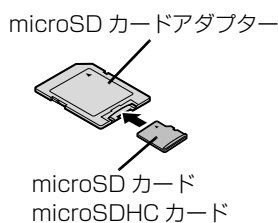
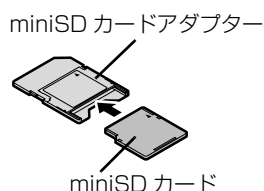
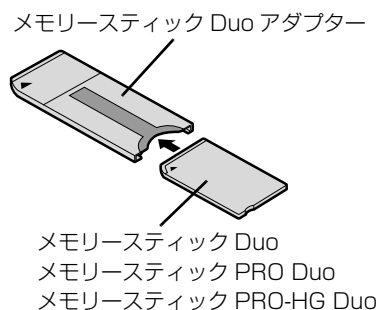
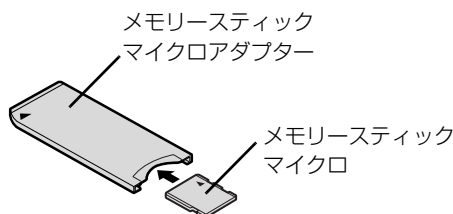
参照 写真を取り込む

『画面で見るマニュアル』»「211430」で検索
→「写真を取り込む」

メモリーカードをお使いになるうえでのご注意

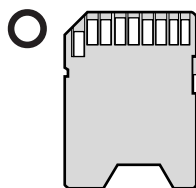
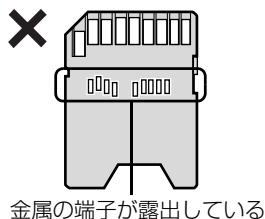
メモリーカードをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- **メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo、メモリースティック PRO-HG Duo、メモリースティックマイクロ miniSD カード、microSD カード、または microSDHC カードをお使いの場合は、アダプターが必要になります。**

  必ずアダプターに差し込んでからお使いください。そのままダイレクト・メモリースロットに挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。
  また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプターごと取り出してください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。

- **メモリースティック Duo アダプターは、塗装部分が剥がれた状態では使用しないでください。**

  ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、メモリーカードを認識しなかったり、故障の原因となります。
  また、剥がれた塗装部分などにテープなどを貼って使用することもしないでください。アダプターが取り出せなくなる場合があります。

- **端子が露出している miniSD カードアダプターは使用できません。**

  ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、故障の原因となります。
  miniSD カードのアダプターは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。

・メモリーカードをお使いになるときの注意

- メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。このパソコンでフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリースロットが対応しているメモリーカードは次のとおりです。
ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

	MEMORY STICK〔注 1〕	SD SDHC〔注 2〕
そのままセットできるもの	・メモリースティック ・メモリースティック（メモリーセレクト機能付） ・メモリースティック PRO（プロ）	・SD メモリーカード
アダプターが必要なもの	・メモリースティック Duo（デュオ） ・メモリースティック PRO Duo（プロデュオ） ・メモリースティック PRO-HG Duo（プロエイチジーデュオ） ・メモリースティックマイクロ	・miniSD（ミニエスディー）カード ・microSD（マイクロエスディー）カード ・SDHC（エスディーエイチシー）カード ・microSDHC（マイクロエスディーエイチシー）カード

注 1：マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
注 2：・マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。
・SDIO カードには対応していません。
・このパソコンで使用できる SD メモリーカード、miniSD カード、および microSD カードの容量は、最大 2GB までです。SDHC カードおよび microSDHC カードの容量は、最大 32GB までです。
・著作権保護機能（CPRM［シーピーアールエム］）に対応しています。

2

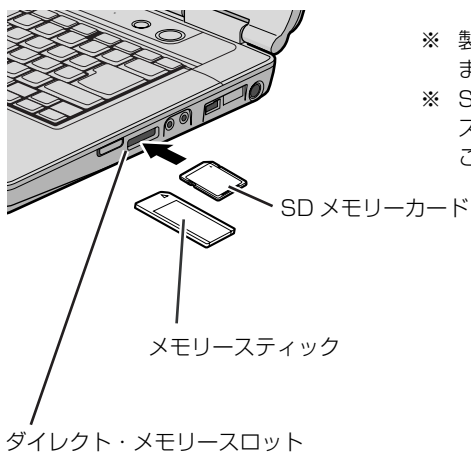
パソコンの取り扱い

メモリーカードを差し込む／取り出す

⚠注意

・メモリーカードを差し込む場合または取り出す場合は、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

メモリーカードを差し込む

1 メモリーカードをダイレクト・メモリースロットに差し込みます。

※ 製品名のある面を上側にして、まっすぐに差し込みます。
※ SD メモリーカード、メモリースティックを同時に使用することはできません。

「マイフォト」について　Column

メモリーカードをパソコンのダイレクト・メモリースロットに差し込むと、画像表示ソフトウェア「マイフォト」が自動起動する場合があります。
「マイフォト」を自動起動しないようにするには、①「マイフォト」のメニュー画面の「設定」ボタンをクリックして、②「メモリーカード挿入時にこのソフトを自動起動する」の「しない」の ○ を ◉ にして、③「適用」ボタンをクリックし、マイフォトを終了します。

（画面は機種や状況により異なります）

マイフォトについて、詳しくは次のマニュアルをご覧ください。

参照

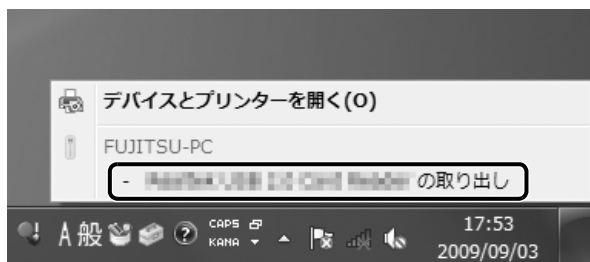
『画面で見るマニュアル』»「210750」で検索
→「マイフォト」

メモリーカードを取り出す

1 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された （ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）をクリックします。

メモリーカードによっては、（ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。

2 「nnn の取り出し」をクリックします。

nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

3 「nnn はコンピューターから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。

メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。
飛び出したメモリーカードを引き抜きます。

メモリーカードについて、詳しくは次のマニュアルもご覧ください。

参照 メモリーカードについて

『画面で見るマニュアル』»「000700」で検索
→「メモリーカードを使う」

LAN 機能を使う

ここでは、LAN 機能を使うときに必要なものなどについて説明しています。

LAN（有線 LAN）をお使いになる場合

LAN（有線 LAN）をお使いになる場合に必要なものなどを説明します。
ここでは、ブロードバンドインターネットにパソコンを接続する例を説明します。
このパソコンには、次のものが標準で準備されています。

- LAN コネクタ（LAN ケーブル用）
  100BASE-TX［ベースティーエックス］/10BASE-T［ベースティー］準拠

必要なものを用意する

このパソコンの他に、次のものが必要です。

- ブロードバンドモデム
  ADSL［エーディーエスエル］モデム、ケーブルモデムなど、インターネットの回線や、プロバイダーにより異なります。
- ルーター
  異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークの中を流れるデータをきちんと目的の場所（パソコンやプリンターなど）に届けるための機器。一般的には、LAN と外部のネットワーク（インターネット）を結ぶために使われます。
  複数台のパソコンを接続する場合は必要です。ブロードバンドモデムに搭載されている場合もあります。
- ハブ
  ネットワーク上でケーブルを中継するための機器。
  複数台のパソコンを接続する場合に必要です。ルーターに搭載されている場合もあります。
- LAN ケーブル（ストレートタイプ）
  お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。

ネットワークの種類やしくみについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照 **ネットワークの種類やしくみについて**

『画面で見るマニュアル』»「415040」で検索
→「ネットワークの種類やしくみ」

LAN を使うための設定

LAN をお使いになるためには、必要な機器を LAN ケーブルで接続し、ネットワークの設定を行います。インターネットに接続する場合は、プロバイダーより提供されるマニュアルに従って、機器の設定をしてください。

接続、設定の方法については、次のマニュアルでも説明しています。

参照 有線 LAN の設定について

『画面で見るマニュアル』»「000100」で検索
→「LAN を使う」

無線 LAN をお使いになる場合

無線 LAN でインターネットに接続するには、無線 LAN アクセスポイントを利用する「インフラストラクチャ通信」という方式で通信します。
ブロードバンドモデムに電波を送受信する無線 LAN アクセスポイントを接続し、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの間を、LAN ケーブルの代わりに電波で送受信します。
このパソコンには無線 LAN が搭載されていますので、別途無線 LAN アダプターを購入する必要はありません。

ネットワークの種類やしくみについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照 ネットワークの種類やしくみについて

『画面で見るマニュアル』»「415040」で検索
→「ネットワークの種類やしくみ」

必要なものを用意する

無線 LAN を使うためには、このパソコンの他に次のものが必要です。

- 無線 LAN アクセスポイント
  LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用して情報のやり取りを行う無線 LAN では、「無線 LAN アクセスポイント」と呼ばれる機器が必要となります。

無線 LAN を使うための設定

無線 LAN を使うには、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの設定が必要です。
初めて設定する場合は、使用するネットワークの情報やデータの暗号化などを、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの両方に設定します。
すでにネットワークで使われている無線 LAN アクセスポイントに接続する場合は、無線 LAN アクセスポイントと同じ設定になるように、パソコンを設定します。

Point　ワイヤレススイッチを ON にしてください

無線 LAN を使うときは、パソコン本体右側面（→P.12）のワイヤレススイッチを ON にしてください。

無線 LAN を使うための設定について、詳しくは、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『セットアップガイド』
→「インターネットの設定をする」

参照　無線 LAN の設定について

『画面で見るマニュアル』»「001000」で検索
→「無線 LAN を使う」

参照　別売の無線 LAN カードなどを使う

『画面で見るマニュアル』»「001020」で検索
→「別売の無線 LAN アダプターを使う」

第3章

周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の使用上の注意やメモリの取り付け方法などを説明しています。目的に合わせてお読みください。

1　周辺機器をお使いになる場合 64
2　メモリを増やす 68

周辺機器をお使いになる場合

ここでは、周辺機器をお使いになる場合に知っておいていただきたいことについて説明します。

⚠警告

・周辺機器のなかには、取り付け／取り外しを行う際に、パソコンや周辺機器の電源を切り、AC アダプタや電源コードをコンセントから抜いた状態で行わなければならない場合があります。必ず添付のマニュアルでご確認ください。感電の原因となります。

・周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコンおよび周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器とは？

USB［ユーエスビー］マウス、プリンター、デジタルカメラ、USB メモリ、携帯オーディオプレイヤーなどの装置や、パソコンの処理能力を上げるためのメモリのことです。パソコンの各種コネクタに接続したり、パソコン本体内部に取り付けたりすることができます。

周辺機器を取り付けると

デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで、E メールに添付したり、プリンターを接続して文書や写真を印刷したり、パソコンでできることがさらに広がります。

周辺機器の取り扱い上の注意

周辺機器を接続するときは、次のことに注意してください。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**
  周辺機器の中には、接続した後に「ドライバーのインストール」などの設定作業が必要なものがあります。周辺機器の接続は、このマニュアルと、取り付ける周辺機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください。
- **このパソコンにケーブル類を接続する方法を確認してください**
  ケーブル類を接続する場合は、次のマニュアルをご覧になり、接続時に間違いがないようにしてください。

  参照 ケーブル類を接続する場合

  『画面で見るマニュアル』
  →「6. 周辺機器の接続」

  誤った接続状態で使用すると、パソコンや周辺機器が故障する原因となることがあります。
  また、「画面で見るマニュアル」で説明している周辺機器の接続方法は一例です。「画面で見るマニュアル」とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。
- **弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします**
  純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。
  純正品が用意されていない周辺機器については、このパソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
  例：Windows 7 のパソコン
- **周辺機器に添付のドライバーがお使いの Windows 7 に対応しているか確認してください**
  お使いになる周辺機器のドライバーが、お使いの Windows 7 に対応していないと、その周辺機器はお使いになれません。必ずお使いの Windows 7 に対応したものをご用意ください。
- **マイク・ラインイン兼用端子／ヘッドホン・ラインアウト兼用端子への接続について**
  次のような場合には、あらかじめ音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンは使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - パソコン本体の電源を入れるとき、切るとき
  - マイク・ラインイン兼用端子やヘッドホン・ラインアウト兼用端子にケーブルを接続するとき
- **周辺機器の電源について**
  周辺機器の電源はパソコンの電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコンより後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

重要 周辺機器を取り付けるときの注意

・周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
・複数の周辺機器を接続する場合は、１つずつ接続と設定を行ってください。

周辺機器を取り付ける場合の注意

- **パソコンおよび接続されている機器の電源を切ってください**
  パソコンの電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。安全のため、マニュアル内に AC アダプタを抜くように指示がある場合は、必ず AC アダプタをコンセントから抜いてください。パソコン本体の電源の切り方については、「電源を切る」（ →P.22）をご覧ください。
- **電源を切った直後は作業をしないでください**
  電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、AC アダプタをコンセントから抜いた後、10 分ほど待ってから作業を始めてください。

周辺機器の取り付け方を調べる

周辺機器の接続については、『画面で見るマニュアル』で紹介しています。
お使いになる周辺機器のマニュアルとあわせてご覧ください。
なお、メモリ容量を増やす場合のメモリの取り付け方については、「メモリを増やす」（→P.68）をご覧ください。

参照　周辺機器の取り付けについて

『画面で見るマニュアル』
→「5. パソコン本体の取り扱い」または「6. 周辺機器の接続」

1 表示される画面の中から、取り付けたい周辺機器をクリックします。

例えば、デジタルビデオカメラを接続する方法を調べたい場合は、「6. 周辺機器の接続」→「デジタルビデオカメラを接続する」をクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

メモリを増やす

このパソコンでは、メモリ容量を増やすことで、パソコンの処理能力などを上げることができます。

メモリの組み合わせを確認する

ご購入時のメモリの組み合わせ

このパソコンには、メモリを取り付ける場所（スロット）が２つ搭載されています。ご購入時のメモリの組み合わせは次のようになっています。

総容量	スロット１	スロット２
2GB	2GB	なし

メモリの組み合わせ例

メモリを取り付けたり交換したりする場合は、次の表のように組み合わせてください。次の表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しない場合があります。
次の表の★印がある組み合わせでは、デュアルチャネルとして動作します。

総容量	スロット１	スロット２	デュアルチャネル
2GB	1GB	1GB	★［注 1］
	2GB	なし	
3GB	2GB	1GB	★［注 1］
4GB（最大）	2GB	2GB	★［注 2］

注１：合計 2GB のデュアルチャネルとして動作します。
注２：合計 4GB のデュアルチャネルとして動作します。

Point **デュアルチャネルとは**

同じ仕様のメモリを2枚取り付けると、理論上、2倍の転送速度でデータのやりとりが可能になり性能が向上します。異なった容量のメモリの組み合わせにした場合は、少ない容量のメモリ分のみデュアルチャネルとして動作します。

メモリを取り付けるときの注意

メモリを取り付けるときは、次の点にご注意ください。

- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- パソコンの部品など不要な物を、パソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となります。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。

⚠警告

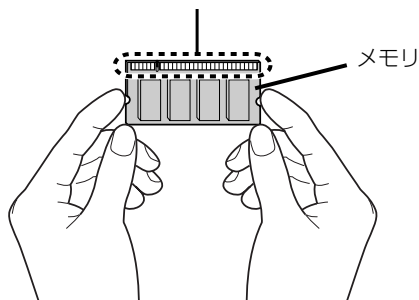
・メモリの取り付け･取り外しを行う場合は、必ずパソコンの電源を切り、AC アダプタやバッテリ、および周辺機器を取り外してください。なお、スリープや休止状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。感電の原因となります。
また、データが消失したり、パソコンやメモリが故障する原因となります。

・取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

⚠注意

・メモリの取り付け位置のすぐそばに高温になる部分があります。
メモリの取り付け／取り外しを行うときは、パソコンの電源を切って、しばらくしてから行ってください。火傷の原因となります。

重要 **メモリ取り扱い上の注意**

・メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
・メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
・メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
・メモリは下図のようにふちを両手で持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となります。

必要なものを用意する

メモリ（拡張 RAM［ラム］モジュール）

FMVNM1GK3（1GB）、FMVNM2GK3（2GB）

プラスのドライバー（ドライバーサイズ：1 番）

このパソコンのネジを取り外すときに使います。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズ（M2.5）に合ったものをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

メモリを取り付ける

メモリは、パソコン本体下面のメモリスロットに取り付けます。
メモリを取り付ける前に、「メモリの組み合わせを確認する」（→P.68）および「メモリを取り付けるときの注意」（→P.69）をご覧になり、作業を進めてください。

1 パソコンの電源を切り、AC アダプタを取り外します。

電源の切り方は、「電源を切る」（→P.22）をご覧ください。

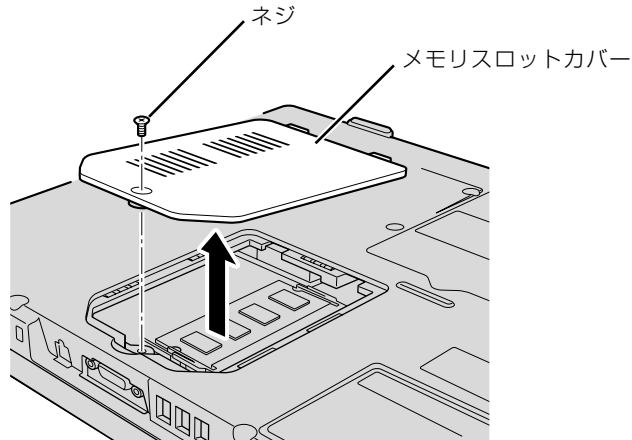
2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

液晶ディスプレイを閉じる場合は、文房具や添付のペンなどを挟まないようにして静かに閉じてください。

3 内蔵バッテリパックを取り外します。

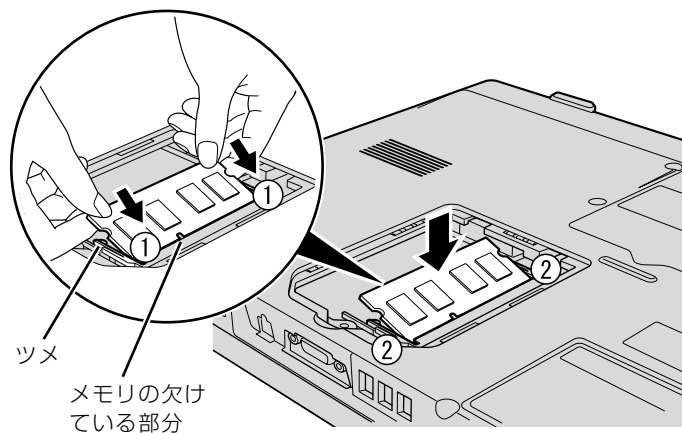
内蔵バッテリの取り外し方は、「内蔵バッテリパックを交換する」（→P.27）をご覧ください。

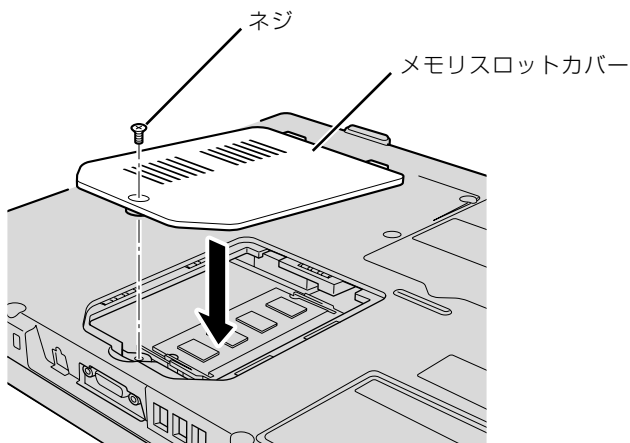
4 メモリスロットカバーを取り外します。

ネジ（1ヶ所）を取り外し、メモリスロットカバーを取り外します。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

下段のメモリスロット（スロット2）にメモリを取り付ける場合は、上段のメモリスロット（スロット1）のメモリを先に取り外してください。

5 メモリを取り付けます。

①両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分とコネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み、
②パチンと音がするまで下に倒します。
メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまっていることを確認してください。

6 メモリスロットカバーを取り付けます。

カバーを取り付け、ネジ穴を合わせてから、ネジで固定します。

7 内蔵バッテリパックを取り付けます。

内蔵バッテリパックの取り付け方は、「内蔵バッテリパックを交換する」（→P.27）をご覧ください。
続いて、メモリが正しく取り付けられたか、メモリの容量を確認しましょう（→P.72）。

メモリ容量を確認する

1 パソコンの電源を入れます。

重要 Windows が正常に起動しない場合

メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」または「メモリエラーです。」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は電源ボタンを４秒以上押して電源を切り、メモリを取り付け直してください。

2 （スタート）→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。

4 表示されたメモリ容量を確認します。

メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかを確認してください。

5 ウィンドウの右上にあるをクリックして、ウィンドウを閉じます。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- 増やしたメモリがこのパソコンで使える種類のものか
  「必要なものを用意する」（→P.70）
- メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか
  「メモリを取り付ける」（→P.70）
- メモリを正しく組み合わせているか
  「メモリの組み合わせを確認する」（→P.68）

第4章
お手入れ

パソコン本体の日ごろのお手入れ方法について説明しています。

1　お手入れ 76

4

お手入れ

ここでは、このパソコンを快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明しています。

パソコン本体および添付品のお手入れ

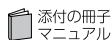
⚠警告

・感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
  ・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタとバッテリーを取り外してください。
  ・プリンターなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

・清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

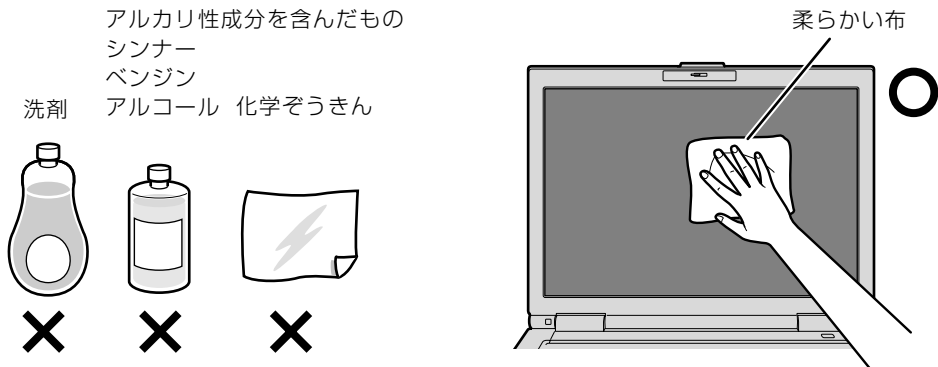
重要 キーボードのキーとキーの間のほこりを取る場合

・ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
・ほこりなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。その際、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

パソコン本体やマウスの汚れは、爪や指輪等で傷を付けないように注意しながら、OA クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体やマウスに水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきん、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）は絶対に使わないでください。
マウスのお手入れの際は、マウスをパソコン本体から取り外してください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイにほこりがたまると、タッチ機能が正常に動作しません。液晶ディスプレイは、定期的に清掃してください。なお、お手入れを行うときは、爪や指輪等で傷を付けないように注意しながら、OA クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

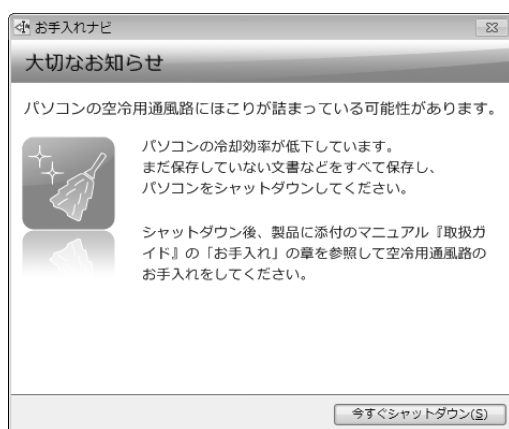
重要 液晶ディスプレイのお手入れを行う場合の注意

- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコンが倒れる恐れがあります。
- 市販のクリーナーや化学ぞうきんを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
  - アルカリ性成分を含んだもの
  - 界面活性剤を含んだもの
  - アルコール成分を含んだもの
  - シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - 研磨剤を含むもの

CD/DVD ドライブのお手入れ

市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVD ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

うまく読み取れない場合には、ディスクの指紋、ほこりなどの汚れを拭き取ることで改善されることがあります。拭き取り方法はディスクの種類により異なります。詳しくはディスクの説明書／レーベルなどをご覧ください。

空冷用通風路のお手入れ

このパソコンは、性能を維持するために放熱用のファンを内蔵しています。放熱用ファンは、パソコンの外と内の間に空気の流れを作ってパソコン内部を冷却しているため、ご利用の環境によってはパソコン内部に周囲のほこりを取り込んでしまうことがあります。このほこりが徐々に蓄積していくと、パソコンが本来の性能を発揮できなくなる場合があります。
このパソコンでは、「お手入れナビ」というソフトウェアにより、パソコン内部の温度やパソコンの総利用時間をチェックすることによって、お手入れの時期をお知らせします。
「パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された場合、この後の手順に従って正しく清掃を行い、ほこりを取り除いてください。

Point メッセージの表示設定を変更することができます

次の手順で、定期的にメッセージが表示されるように設定することもできます。
(スタート)→「すべてのプログラム」→「お手入れナビ」→「お手入れナビの設定」の順にクリックします。
「お手入れナビの設定」ウインドウが表示されますので、ウィンドウの説明に従って操作してください。

空冷用通風路の清掃方法

重要 充分に換気してください

清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。

重要 次のことにご注意ください

- 洗剤は使用しないでください。
- 清掃時に破損した場合、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分ご注意ください。
- ほこりを取り除く際は、金属などの硬いものや、木製の折れやすいものなどを使うと故障の原因となります。

重要 静電気を放電してください

パソコン本体内部は、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。
パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

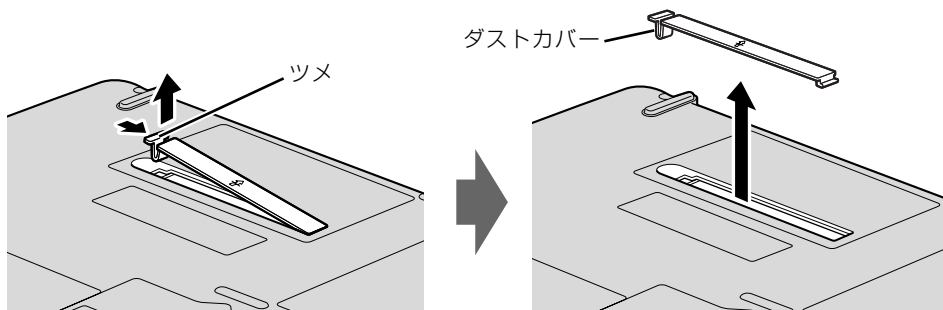
1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

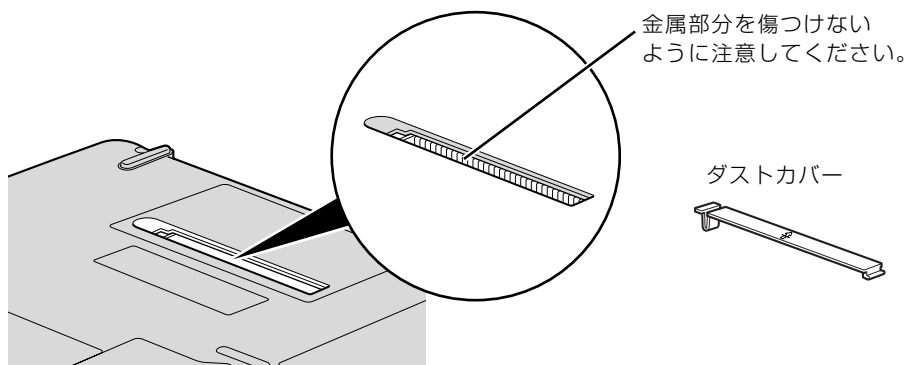
電源の切り方は、「電源を切る」（→P.22）をご覧ください。

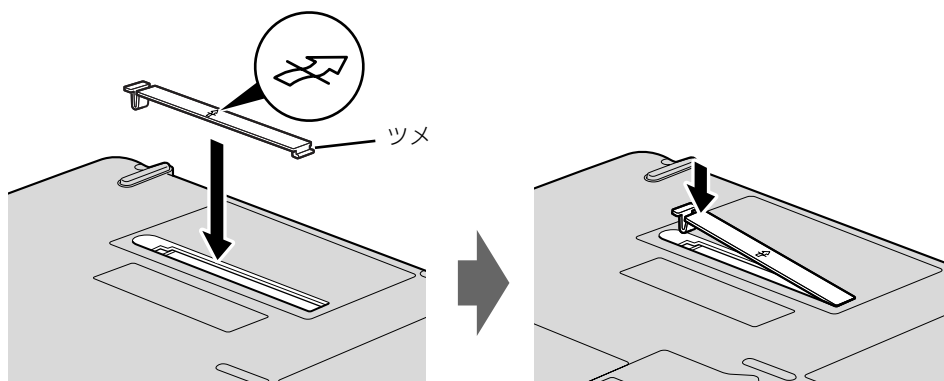
2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

液晶ディスプレイを閉じる場合は、文房具や添付のペンなどを挟まないようにして静かに閉じてください。

3 ダストカバーを取り外します。

ツメを矢印の方向に押しながら、ダストカバーを取り外します。

4 空冷用通風路を清掃します。

ダストカバーと空冷用通風路のほこりを取り除いてください。

5 ダストカバーを取り付けます。

ダストカバーをツメのない側から差し込み、カチッと音がするまでしっかりはめこみます。

<u>ダストカバーを取り外したまま使用しないでください。</u>
取り外したまま使用すると、故障の原因となります。

第5章 仕様一覧

パソコン本体の仕様を記載しています。
製品名称（品名）は、梱包箱に貼り付けられている保証書でご確認ください。

1　パソコン本体の仕様 82
2　その他の仕様 86

次の表は各機種ごとの特徴を示しています。詳しい仕様については、次ページからの仕様一覧をご覧ください。

製品名称（品名）	USB マウス	無線 LAN	モデム
NF/ER	○	○	×

○：添付または搭載、△：機能を選択した場合に添付または搭載、×：非添付または非搭載

パソコン本体の仕様

製品名称			FMV-BIBLO NF/ER
CPU 注1			インテル® Celeron® プロセッサー 900
			2.20GHz
	キャッシュメモリ		2次：1MB（CPU内蔵）
チップセット			モバイル インテル® GL40 Express チップセット
システム・バス			800MHz
メインメモリ			標準2GB（2GB × 1） （PC3-6400 DDR3 SDRAM SO-DIMM） デュアルチャネル対応可能、ECC なし　最大4GB 注2
メモリスロット			× 2（空きスロット× 1）
表示機能	グラフィック アクセラレータ		チップセット内蔵（モバイル インテル®　GMA 4500M）
	ビデオメモリ		最大776MB（メインメモリと共有）注3注4
	液晶ディスプレイ注5		LED バックライト付タッチパネル式 15.6型ワイド TFT カラー 1366 × 768 ドット （スーパーファイン液晶）
	解像度／発色数注6		液晶ディスプレイ表示：1366 ×768 ドット／ 1677万色 外部ディスプレイ表示：最大1920×1200 ドット／最大1677万色 HDMI出力：最大1920×1080ドット／最大1677万色
ハードディスクドライブ注7			約320GB（Serial ATA/150）注8
CD/DVD ドライブ（P.86）			スーパーマルチドライブ
オーディオ機能	オーディオコントローラ		チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能		サンプリング周波数　最大192kHz、24ビット（再生時）注9、 サンプリング周波数　最大96kHz、16ビット（録音時）注9、 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能		OS 標準機能にてサポート
	スピーカー		ステレオスピーカー内蔵
キーボード			日本語キーボード （キーピッチ 約19mm 、キーストローク 約3mm、87キー、JIS 配列準拠）
ポインティングデバイス			フラットポイント（ジェスチャー機能対応）、 タッチパネル式液晶（指／ペン入力）、 USB マウス添付
ワンタッチボタン			メニューボタン、タッチ文字入力ボタン、文字入力切替ボタン、 音量調節ボタン、サポートボタン搭載
通信機能	LAN		100BASE-TX / 10BASE-T 準拠
	無線 LAN 注10	規格	IEEE 802.11b 準拠、 IEEE 802.11g 準拠、 IEEE 802.11n ドラフト2.0準拠、 （Wi-Fi® 準拠）注11
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式注12

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（P.84）をご覧ください。

製品名称		FMV-BIBLO NF/ER
インターフェース	ExpressCard	× 1 スロット (ExpressCard/34 モジュール、ExpressCard/54 モジュール対応)注13
	SD メモリー カード／ メモリースティック注14	× 1 スロット
	外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン× 1
	USB 注15	USB2.0 準拠× 4(右側面× 1、背面× 3)
	LAN	RJ-45 × 1
	HDMI 注16	× 1(HDMI Ver1.2)
	オーディオ	ヘッドホン・ラインアウト兼用端子注17:φ3.5mm ステレオ・ミニジャック／ マイク・ラインイン兼用端子注18:φ3.5mm ステレオ・ミニジャック
	状態表示	LED
電源供給方式	AC アダプタ	入力 AC100V 〜 240V、出力 DC19V(4.22A)
	バッテリ	内蔵バッテリパック:リチウムイオン　10.8V ／ 2000mAh
バッテリ稼働時間 (JEITA 測定法 1.0 注19)		約 1.5 時間
バッテリ充電時間注20		約 2.0 時間
消費電力 (標準時 / 最大時 / スリープ時) 注21		約 20W ／約 65W ／約 1.1W
省エネ法に基づく エネルギー消費効率注22		I 区分 0.00049(AAA)注23
外形寸法(幅×奥行×高さ) (突起部含まず)		372 × 262.3 × 43.2 〜 47.0mm
質量		約 3.2kg
盗難防止用ロック取り付け穴		あり
温湿度条件		温度 5 〜 35℃／湿度 20 〜 80%RH(動作時)、 温度 −10 〜 60℃／湿度 20 〜 80%RH(非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
プレインストール OS		Windows 7 Home Premium 32 ビット 正規版(DirectX 10 対応)
サポート OS		Windows 7 Ultimate 32 ビット 正規版、 Windows 7 Professional 32 ビット 正規版、 Windows 7 Home Premium 32 ビット 正規版

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」(→ P.84)をご覧ください。

仕様一覧の注記について

注 1　ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なることがあります。
注 2　システムの画面上ではメモリ容量が 4.00GB と表示されても、OS が使用可能な領域は最大約 3GB になります。
注 3　・Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）を使用しており、パソコンの動作状況によりメモリ容量が最大設定まで変化します。
　・ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。
　・ビデオメモリの最大値は、メインメモリの搭載状況により異なります。
　・ディスプレイドライバーの更新により、ビデオメモリ容量の最大値が変わる場合があります。あらかじめご了承ください。
注 4　メインメモリを 4GB にした場合のメモリ容量は、最大 1288MB（メインメモリと共有）になります。
注 5　・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
　・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
　・長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
　・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。
　なお、低輝度で長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になることがあります。
注 6　・グラフィックアクセラレータの出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。また、外部ディスプレイや HDMI 入力対応ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイや HDMI 入力対応ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
　・同時表示時やマルチモニター表示時、HDMI 出力端子接続時の出力方式などについては、次のマニュアルをご覧ください。

『画面で見るマニュアル』»「000360」で検索
→「画面の解像度と発色数について」

注 7　容量は、1GB=1000^3 byte 換算値です。
注 8　このパソコンは Windows RE 領域とリカバリ領域に約 16GB 使用しています。そのため、「コンピューター」のハードディスクの総容量は、マニュアルの記載よりも約 16GB 少なく表示されます。
また、残りの容量を C ドライブ、D ドライブにそれぞれ約 50%ずつ割り当てています。
なお、ハードディスクの区画の数や種別を変更したり、外付けドライブを接続した状態では、「トラブル解決ナビ」が正常に動作しなくなります。ご了承ください。
注 9　使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
注 10　無線 LAN の仕様については、次のマニュアルをご覧ください。
『画面で見るマニュアル』»「002000」で検索
→「無線 LAN の仕様」
注 11　Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
注 12　IEEE 802.11n ドラフト 2.0 準拠を使用したときは、MIMO 方式にもなります。
注 13　ExpressCard/34 モジュールと ExpressCard/54 モジュールは同時に使用できません。
注 14　・SD メモリーカード（SDHC カードを含む）、メモリースティック（メモリースティック PRO を含む）の同時使用はできません。
　・SD メモリーカード（SDHC カードを含む）は著作権保護機能（CPRM）が使用されているデータの読み書きに対応しています。
　miniSD カード、microSD カード、および microSDHC カードの場合、別途、専用のアダプターが必要となります。
　・すべての SD メモリーカード（SDHC カードを含む）、メモリースティック（メモリースティック PRO を含む）の動作を保証するものではありません。SDIO カード、マルチメディアカード（MMC）、およびセキュアマルチメディアカードには対応しておりません。
　なお、ご使用可能な SD メモリーカード、miniSD カード、および microSD カードは最大 2GB、SDHC カード、microSDHC カードは最大 32GB までとなります。
　・メモリースティック（メモリースティック PRO を含む）は著作権保護機能が使用されているデータの読み書きはできません。
　・メモリースティック／メモリースティック PRO の 4 ビットパラレルデータ転送に対応しております。
　・メモリースティック PRO-HG Duo をご使用になる場合、4 ビットパラレルでの転送になります。
　・メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo、メモリースティック PRO-HG Duo、およびメモリースティックマイクロの場合、別途、専用のアダプターが必要となります。
注 15　すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。
注 16　・すべての HDMI 端子のあるテレビへの表示を保証するものではありません。
　・市販のテレビとの連動機能はありません。
注 17　OS 上で設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することもできます。なお、仕様は次の通りです。
ヘッドホン出力時：出力 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω
ラインアウト出力時：出力 1V 以上、負荷インピーダンス 10kΩ 以上

注 18　OS 上で設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することもできます。なお、仕様は次の通りです。
マイク入力時：入力 100mV 以下、入力インピーダンス（AC）1kΩ 以上（DC）2kΩ 以上
ラインイン入力時：入力 1V 以下、入力インピーダンス 10kΩ 以上

注 19　社団法人 電子情報技術産業協会の『JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver1.0）』（http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html）。
なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。

注 20　電源 OFF 時またはスリープ時。なお、装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。

注 21
- 動作時の最小消費電力（Windows 起動直後の消費電力）/ 最大消費電力です。また、AC アダプタ運用時の消費電力です。
- 電源 OFF 時の消費電力は、約 1.0W 以下です。なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注 22
- 2007 年度基準で表示しています。
- エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

注 23　カッコ内のアルファベットは、「A は 100%以上 200%未満、AA は 200%以上 500%未満、AAA は 500%以上」の省エネルギー基準達成率であることを示しています。

その他の仕様

CD/DVD ドライブ

ドライブの主な仕様は次の通りです。
搭載されているディスクドライブの数値をご確認ください。

- 各数値は仕様上の最大限であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。
- DVD ソフトによっては再生できない場合があります。
- ディスクによってはご利用になれない場合もあります。
- 書き込み、書き換え速度は、ドライブの性能値です。書き込み、書き換え速度に対応したディスクが必要になりますが、対応ディスクが販売されていない場合があります。
- 読み出し、書き込み速度は、ディスクや動作環境によって異なる場合があります。
- DVD-RAM は、カートリッジから取り出した状態、あるいはカートリッジなしでご使用ください。
- Ultra Speed CD-RW ディスクはご使用になれません。

ドライブ		スーパーマルチドライブ (DVD ± R DL(2 層) 書き込み)
読み出し	CD-ROM	最大 24 倍速
	CD-R	最大 24 倍速
	CD-RW	最大 24 倍速
	DVD-ROM	最大 8 倍速
	DVD-R	最大 8 倍速
	DVD+R	最大 8 倍速
	DVD-RW	最大 8 倍速
	DVD+RW	最大 8 倍速
	DVD-RAM	最大 5 倍速（4.7/9.4GB）
	DVD-R DL(2 層)	最大 6 倍速（8.5GB）
	DVD+R DL(2 層)	最大 6 倍速（8.5GB）
書き込み/書き換え	CD-R	書込最大 24 倍速
	CD-RW	書換最大 10 倍速
	DVD-R	書込最大 8 倍速
	DVD+R	書込最大 8 倍速
	DVD-RW	書換最大 6 倍速
	DVD+RW	書換最大 8 倍速
	DVD-RAM	書換最大 5 倍速（4.7/9.4GB）
	DVD-R DL(2 層)	書込最大 4 倍速（8.5GB）
	DVD+R DL(2 層)	最大 4 倍速（8.5GB）

索引

記号

50 音入力ボタン 9

C

Caps Lock ランプ 16
CD............................44, 45
CD/DVD 取り出しボタン............. 11

D

DC-IN コネクタ 12
DVD 44, 45

E

ExpressCard カード取り出しボタン ... 11
ExpressCard スロット 11

H

HDMI 出力端子 13

L

LAN コネクタ....................... 13
LAN（有線 LAN）機能................ 59

S

Shift キー.......................... 15

U

USB コネクタ 12, 13
USB マウス 64

あ行

大文字／小文字（Caps Lock）キー.... 15
音量調節ボタン 9

か行

カーソルキー 15
外部ディスプレイコネクタ 13
確定・改行（Enter）キー............. 15
各部名称 7
クリック 31, 34
後退（Back Space）キー............ 15

さ行

削除（Delete）キー................. 15
サポートボタン 9
仕様
　－パソコン本体 82
状態表示 LED 8, 9, 16
スーパーマルチドライブ...............11
スピーカー 8

た行

ダイレクト・メモリースロット 12
ダストカバー 14
タッチ機能..........................36
ダブルクリック 32, 35
ディスクアクセスランプ...............16
デジタルカメラ 64
電源
　－入れる..........................18
　－切る............................22
　－切れない場合 22
電源ボタン..........................8
盗難防止用ロック取り付け穴...........13
ドラッグ.........................32, 35
取消（Esc）キー 15

な行

内蔵無線 LAN アンテナ 10

は行

排気孔.............................13
バッテリ...........................25
バッテリ残量ランプ 16, 26
バッテリ充電ランプ 16, 25
バッテリパック 14, 27
フラットポイント 8
プリンター 64
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子 12
ポイント.........................32, 35

ま行

マイク・ラインイン兼用端子...........12
マウス.............................29
マウスポインターを移動させる 31, 34
無線 LAN アンテナ 10
メニューボタン 9
メモリ.............................68
メモリーカード 53
メモリースティック 53
メモリ（拡張 RAM モジュール）
スロット...........................14

わ行

ワンタッチボタン. 9

FMV-BIBLO NF/ER

取扱ガイド

B6FJ-2741-01-00

発 行 日　2009 年 11 月
発行責任　富士通株式会社

〒 105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター
Printed in Japan

ア 0910-1

FUJITSU

本製品はPC3R「PCグリーンラベル制度」の
審査基準（2009年度版）を満たしています。
詳細は、Webサイト http://www.pc3r.jp を
ご覧ください。

このマニュアルはリサイクルに配慮して印刷されています。
不要になった際は、回収・リサイクルにお出しください。

T4988618649469